

『ゆとりの時間』の運営

馬場末吉	蘭森正栄	池田克己
天川義昭	金岡直美	山瀬晋吾
針谷茂	平松仁史	川口嘉夫
沢村昭子		

I はじめに

4月3日付け日経新聞は、50年代前半期における新入社員の特色を、「人工芝型」（見た目にきれいで根っこがない）、「カラオケ社員」（中身はカラッポで伴奏ばかり）、「コインロッカー型」（こじんまりとまとまっていてコインを入れないと使いものにならない）などと、手きびしく表現している。また新入社員にチャレンジ精神と創造性の発揮を特に要求する企業が多かったとも書いてあった。

現在の教育路線の成果がこう見られているところに安易に読みすぎせない点があると思う。そしてこれは、我々が来る56年度から始めようとしている新指導要領による新しい教育への要請ともとれる。我々が従来精力を傾注してきた教育が全面的に誤っていたとはいわない。しかし、我々は個性を尊重した教育をしてきただろうか。多彩な創造性を豊かに引き出して来たであろうか。一層の難渋困難が予想される80年代の日本に必要な、バイタリティーある若者の育成につとめたか。顧みると、自信をもって「イエス」とは答えられないように思う。

本校では新指導要領による教育のスタートを目前にし、次の3点について目論見をつくりつつある。

(1)各教科の目標を明確にする

教科教育の営みのために、できる限りその条件整備につとめ、最大限の効果を上げるように努めたが、更に意識的な目標達成への取り組みが必要であると思う。というのは、我々の日々が惰性に流され、上すべりする危険があるからである。

(2)学校教育の全体計画を再考する

道徳・特別活動が学校教育の中でしめる役割は何なのか。目標は何なのか。生徒一人一人に真の活力を与え、個性を引き出す契機となり得なかったのではないか。などという反省が生まれて来る。また特別活動の内容があまり多岐にわたり、一つ一つの営みからその目標と努力点を把握できない憾みはなかったか。極めて類似点の多い内容について異なった名義を付加して活動していくことには限度があろう。

(3)教師の能力開発に取り組む

生徒の個性を伸ばすための試みに最も必要なものは何かを考えると、やゝ飛躍した結論のようだが、教師自らが自己の能力開発に意欲的に取り組む必要があるのではないだろうか。教師の能力開発をも裁量時間の大きな目標の一つとして掲げるべきではないかと思う。

我々はこの1年、来る56年度からの実施に備えて、無我夢中で「裁量時間」の運営について試行をしてきた。思うに混迷は益々深まるばかりというべきかもしれない。ただこのことで我々は意気阻喪したりはしない。それは問題の所在について、おぼろげながら見通しがつき共通の理解が得られつつあるからである。より効果的な「裁量時間」の運営を目ざして我々は努力を続けていくつもりである。

Ⅱ 「ゆとりの時間」の運営にあたって

学校教育は、人間として調和のとれた生徒の育成を常にめざしている。しかし現実はずしもそうではないという判断で、教育課程の改訂ということになった。

新教育課程のねらいは

- (1)人間性豊かな生徒を育てること。
- (2)ゆとりのあるしかも充実した学校生活が送れるようにすること。
- (3)国民として必要とされる基礎的、基本的な内容を重視するとともに児童生徒の個性や能力に応じた教育が行われるようにすること。

である。

これに伴って、学習指導内容の精選が行われ、従来の学習指導内容が削減または整理されることになった。また教科の時間数は週あたり4時間削減され、この時間をゆとりの時間として活用することになった。

この「ゆとりの時間」を教育活動として実施していくためには

- (1)この時間の活動内容として何を選ぶか。その活動の教育的な意義や価値はどうか。
- (2)生徒の学校生活の実情はどうか。改善すべき点は何か。
- (3)ゆとりの時間を週時間割にどのようにくみ入れるか。

が問題点である。これらが円滑また効果的に行われるために、54年度、55年度の2年にわたり、研究を試みている。研究にあたっては、移行的に実施する方法と完全実施の方法がある。移行的な実施というのは例えば、ゆとりの時間を4時間とらないで2時間で実施する方法である。この方法だと漸次充実をはかり完全実施への見通しをたてうると考えられるが、この2時間をどの教科の時間からとるか、また、2時間と4時間では活動内容のとり方や効果について、あくまで差異があるのではないかと考えた。

本校では、完全実施の形で試行し、研究することに意義をみとめて、実施することにした。

1 本校の教育活動、生徒の実情

- (1)文化祭、校内合唱コンクール、運動会、校内球技大会等の練習、準備、部活動に熱心で、放課後長時間にわたっている。練習時間の不足、下校時刻の不徹底、遠距離通学生の下校に問題がある。
- (2)入学時のオリエンテーション、身体測定、美術館資料館見学、観能、修学旅行の事前事後学習、大掃除等で教科の時間がかける。これらの活動、行事の時間のとり方をどうするか。
- (3)生徒との個別懇談の時間のとり方をどのようにするのがよいか。
- (4)共同製作、グループ活動、球技大会、合唱コンクール等を通して、小グループまたは学級単位の集団活動を一層充実させる。
- (5)学習や生活態度が受身的な生徒に対して 自発性、自律性をどのようにつけるか。
- (6)読書の量や質について、個人差が非常に大きく、中学生の域をはるかにこえている生徒がいる反面、遅れている生徒がいる。
- (7)清掃、奉仕活動について、消極的な生徒がかなりいる。
- (8)体力、持久力が不足している生徒がいる。

本校の教育活動、生徒の実情を考えるとまず以上のことがらがあげられる。

2 「ゆとりの時間」についての基本的な考え

心身ともに健康で人間性豊かな生徒を育てることをめざし、生徒の実情にそくした活動計画、実践的で効果的な活動計画をつくり実施する。

(1) 自主性、積極性を高める。

生徒の学習や生活行動をみると自主性、自律性の弱い生徒がいる。無気力、無目的によるものである。自ら課題をもち、目標をもって積極的に行動できる教育活動をする。

(2) 協調性を強め、集団活動ができる。

集団生活ができるようにするのが学校教育の大きな役割である。個々の能力を活かし、かつ集団で一つの目標をなしとげるようにする。

(3) 清掃、奉仕活動の場をつくり、進んで活動できるようにする。

(4) 強健な身体をつくり、心身ともに耐久力、持久力をつくる。

(5) 教育活動の精選と充実をはかる。

従来の行事や活動を反省し、精選する。充実感、成就感のある心のゆとりをもてるようにする。

(6) 学校生活に時間的ゆとりをもてるようにする。

3 「ゆとりの時間」の呼称について

「ゆとりの時間」を本校では「S・H」と簡潔によんでいる。「S・H」はStudy Hourの略記である。Studyには自ら学び取るという意味があり、学校での活動、生活すべてにわたって自主的に学習することをねらって「Study Hour」と呼ぶことにした。

4 SH委員会の組織、運営

SH委員会は副校長、研究部主任、教務部主任、生徒指導部主任、各学年より2名の委員で組織している。

SH委員会は「ゆとりの時間」の研究の中心となり、SHの学校全体の計画立案、学年ごとの計画立案運営上の準備、作品・資料等結果の整理を行っている。

Ⅲ 「SH」の計画と実践

1 「SH」の時間のとり方

(1) 一つの計画で1年間を単位に研究試行するのがたてまえであるが十分な計画がたてられたとしても、実践していくと思わぬ障害にでくわすこともある。そこで、年間の計画をもちながら1学期ごとに反省し、計画を補正して実施することにした。昭和54年度第1学期に第1次の試行を実施した。

(2) 活動内容は従来の行事や活動を主軸にして、第2次、第3次と順次、新しい活動内容を加えていくように考えた。

(3) 学校生活時間に時間的ゆとりをとる。

午前中の中休み時間を5分間延長し、15分間にする。

昼食後の休み時間を15分間延長し、40分間にする。この時間により生徒相互の親睦を一層深めたり、図書室を利用し読書に親しむ機会とする。また40分間の時間を用いて、生徒会委員会、部活動のミーティング等生徒会活動も行うことができるようにする。

(4) 合唱コンクール等継続的に練習、活動できるようにSHの時間の回数を多くとるようにする。

(5) 「ゆとりの時間」としての時間は週4時間(50分×4=200分)である。本校の時間数を計算

すると、中休み $5分 \times 5 = 25分$ ……(ア) 昼食後の休み $15分 \times 4 = 60分$ ……(イ)
 SH $30分 \times 4 = 120分$ ……(ウ) (ア)+(イ)+(ウ) = $25 + 60 + 120 = 205(分)$ となる。
 つまり $205 - 200 = 5(分間)$ 多くとったことになる。

- (6) SHの時間を6校時目にとり、放課後の活動にひきつづきやすくなるよう配慮する。
 (7) SHの時間を2時間連続できるようにする。水曜日と金曜日のSHを5限、6限に連続できるように時間割編成してある。
 (8) 木曜日クラブのある日は、B校時(中休み5分間、昼食後の休み15分間の延長なし)で行う。
 (9) 教官会議、教官研修のある日はSHの時間はなし。

教官会議、教官研修は生徒の指導、活動に還元できる時間であるとする。

(10) 週時間割

	月	火	水	木	金	土	A校時	B校時	
学活							8.30 - 8.40	8.30 - 8.40	週番朝礼 8.20 始業時刻 8.30 下校時刻 5.30
1限		道徳					8.40 - 9.30	8.40 - 9.30	
							10分間	10分間	
2限							9.40 - 10.30	9.40 - 10.30	
							15分間	10分間	
3限							10.45 - 11.35	10.40 - 11.30	
							10分間	10分間	
4限							11.45 - 12.35	11.40 - 12.30	
昼食						掃除 学活	12.35 - 12.55	12.30 - 12.50	
昼休							12.55 - 13.35	12.50 - 13.15	
掃除							13.35 - 13.55	13.15 - 13.35	
							5分間	5分間	
5限				学活			14.00 - 14.50	13.40 - 14.30	
							10分間	10分間	
6限	SH	SH	SH	クラブ	SH		15.00 - 15.30	14.40 - 15.30	
学活							15.30 - 15.40	15.30 - 15.40	

2 第1次試行を終えて第2次試行へ

第1次試行を終えて1学期末に「ゆとりの時間」の時間のとり方、活動内容について、全校生徒(522名)に対して調査を行った。調査の内容、結果は120ページのようなものである。

- (1) 調査1 「2限後の中休みは15分間がよい」は全体の70%が賛成している。10分間を5分間延長しただけであるが教室の移動、更衣などにあわたしい休み時間にいくらか休みとして加えることができたと思う。また、教師も連続する授業に中休みをとることにより、次時への活力をうることができた。
- (2) 調査2 「昼食後の休みは40分間がよい」は60%である。さらに「40分間より長い方がよい」というのが27%である。両者を合計すると87%となり、生徒は休み時間の長いのをよいとしている。

特に1年生は顕著である。教師は休み時間40分間に昼食時間20分間を合わせて60分間を利用して校務分掌部会、学年会、連絡打合わせを行うことができた。しかし40分間の休み時間は長すぎる。これをSHの時間に加えるのが効果的と思われた。

③調査3 「SHの時間は30分間がよい」が51%である。「SHの時間は30分間より長い方がよい」が32%である。この数値からSHの時間を簡単にきめるわけにはいかない。時間は活動内容による。ジョギングを行なった2年では「30分間がよい」が105名(59%)「30分間より短い方がよい」が41名(23%)で合計146名(82%)であり、ジョギングでは短時間で毎日するのが適している。自主研究を行なった3年では「SHの時間は長い方がよい」が78名(45%)である。研究や作業では回数を多くするよりも単位時間を長くする必要がある。

活動時間は活動内容により長短ができる。全校同一の時間にSHの時間をとる以上はやむをえないことであろう。学年ごとにSHの時間をとれば学校全体の時間割編成が難しくなる。

④生活時間には時間のリズムを一定する必要がある。

木曜日はB校時で行ない、他の日はA校時で行なうと時間が気になり生活リズムがみだされる。これは計画段階では予想しなかったが実施されると意外に大きく感じられた。

以上の調査結果および実施後の反省を参考にして第2次試行の計画をつくった。

(1)中休み、昼食後の休みは長い方がよいとする生徒が多かったが、SHの時間が30分間では短く、50分間を希望する生徒も多かった。どちらも満たしたいが一定の在校時間のわく内では両者を満たさず、活動の充実、円滑を考えて、休み時間の延長をとりやめることにした。SHの時間を50分間単位とすることにした。

週 時 間 割

	月	火	水	木	金	土	校 時
学 活							8.30 - 8.40
1 限		道 徳					8.40 - 9.30
							10 分 間
2 限							9.40 - 10.30
							10 分 間
3 限						S H	10.40 - 11.30
							10 分 間
4 限						掃 除	11.40 - 12.30
昼 食						学 活	12.30 - 12.50
昼 休							12.50 - 13.15
掃 除							13.15 - 13.35
							5 分 間
5 限				学 活			13.40 - 14.30
							10 分 間
6 限			S H	ク ラ ブ	S H		14.40 - 15.30
学 活							15.30 - 15.40

週番朝礼 8.20
 始業時刻 8.30
 下校時刻 5.30 (4月~10月)
 5.00 (11月~3月)

- (2) 自主研究、自主製作およびその発表等、長時間を必要とすることもあるので連続2時間のSHをとれるように時間割編成をしてある。水曜日と金曜日のSHを2時間連続できるようにした。
- (3) 土曜日の3限4限は連続2時間であるが、掃除の時間を20分間を含める。したがって、SHの時間は正味80分間である。
- (4) SHの時間は水曜日、金曜日の6限、土曜日の3限4限として、放課後の活動と連続できるようにも配慮した。

IV 「SH」実践の記録

1 全学年で行われた「SH」の活動内容について

これまで授業時間を短縮したり、割愛して行っていたものや、生徒達が放課後遅くまで残留して活動していたものがその主なもので、以下それらについてのべる。

- (1) 学級写真撮影、学級役員・各種委員・係選出、記名検査、生徒会役員選挙（立会演説会及び投票）、生徒議会公聴会、生徒会各種委員会、全校集会、学級会

以上のものは従来「学指・学活」の時間に行っていたが、SHの時間にも行なった。「学指・学活」との関係については、V.「SH」と他の教育活動についてP. 109にくわしくのべてある。

- (2) 避難訓練、体重測定

これまでいずれも授業時間の一部をさいて行ってきたが、授業が中断されたり、中途半端になっていた。特に体重測定は毎月のもので、その回数も多かったが、SHの時間に行なうことによって、こうした問題点も解消された。

- (3) 自主学习

中間テスト、期末テストの前1週間程のSHの時間を自主的な学習時間にあてた。生徒達はめいめい自分の学習したい教科の教科書やノート・問題集を広げて、自主的に学習していた。生徒同志で教え合ったり、巡視に回る教師にあれこれ質問をしたり、かなりざわざわするが、試験前であるだけに、有効に使っている者もいた。また一方、落ちついて勉強できないから、自主学习の時間は不要とか、この分を早く帰宅させてほしいとかいう意見の生徒達もいた。

- (4) 合唱コンクールの練習

新学年にもどうか慣れて一息ついた6月、年間最初のクラス対抗行事の合唱コンクールがある。クラスの団結を築くべく、例年は朝の始業前や昼休みや放課後などに自主的に練習をしている。そこで、コンクールの10日程前からSHの時間をこの練習にあてた。それだけ早くきり上げられるため、放課後の部活動への圧迫も少なくなった。

- (5) 球技大会の練習

クラス対抗行事として、一学期の終り頃に2・3年生はバレーボール、1年生は男子サッカー、女子ハンドボールの大会があり、三学期には全学年ともバスケットボールの大会がある。この練習として、数回SHの時間をあてた。三学期のものは学年毎に大会の期日をずらすし、練習場所も体育館しかないのもそれほどでもないが、一学期のものは、1週間程前からグラウンドのあちこちでクラス毎の練習が始まり、例年だと合唱コンクールのときと同様に部活動はなかなかメンバーがそろわず、一時的にマヒ状態になる。しかし、これもSHの時間をあてることによって、それだけ早くきり上げられるため、その圧迫も少なくなった。

(6)部 活 動

中体連の市県体予選と新人大会の前のそれぞれ数日を文化系の部を含め部活動にあてた。生徒全員が部に所属している訳ではないので、多少問題はありますが、大会を前にした運動系の部にとって大変な難い時間であった。運動系の部は、野球・サッカー・陸上・剣道・卓球・庭球・バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・バドミントンがあり、文化系の部は、合唱・化学・茶道・アマチュア無線があり、どの部にも所属していない生徒は、一年生が16名(約9%)、二年生が12名(約7%)、三年生が47名(約27%)であった。また、新人大会のときは、三年生は後輩の指導にあたった。全員が入部しておれば、SHの時間を大幅に部活動にあてたり、「クラブ活動」と「SH」と「部活動」を融合的に統一して行なったりすることも可能になるであろう。

(7)大 掃 除

例年は始業式、終業式の他、特別な行事のある時に行なわれていたが、回数を増して毎月1回ずつ行なわれるようにし、それをSHの時間にあてた。授業を1時間さいたり、短縮授業などになくても充分できるので都合が良かった。本校では普通掃除を昼食休み後5限目が始まる前に一斉に20分間行なっているが、大掃除のときは5限目を20分間繰り上げて、普通掃除の時間とSHの時間とを合わせて大掃除を行なった。

(8)運動会の種目説明・練習・準備

例年は授業をさいて、1学年につき2時間ずつ生徒会の役員及び体育委員長が運動会の種目を説明し、運動会の前日の午後2時間で全体での練習と準備を行なっていた。これをすべてSHの時間にあて、時間割をやり繰りしてSHの時間を集め、2単位時間ずつ2回とることができた。練習の時間をもっと取りたいければ、授業時間をさかなくとも可能である。

(9)文化祭の練習・準備

例年は劇や出し物の練習・展示物の製作などのため、放課後遅くまで残っていて教師の方から何度も注意を受けたり、守衛に迷惑をかけたりにしていた。特に三年生は、中学校生活最後の良き思い出にと、クラスの団結を一層深め、その熱の入れようも大きい。そこで、文化祭の2週間程前からSHの時間をこうした練習や製作の時間にあてて、5時30分の下校時間を極力守らせるようにし、特に遅くなりがちの三年生でも遅くとも6時には下校させるようにした。

(10)生徒個別懇談会

従来は、「学指・学活」の時間を使っていたが、この時間だけでは足りないので昼食休みや放課後を利用せざるをえなかった。これをSHの時間の自主制作・読書・自主研究と並行して学級担任が、生徒と友人・家庭・勉強・進学のことなどについて、グループ懇談または個人懇談を行なった。昼休み時間では気ぜわしく落ちつかないし、放課後では各種の会議があったり、生徒も帰宅が遅くなるので落ちつかないが、SHの時間では腰を据えていろいろと話し合うことができた。

(11)写生会学級入選作品選び

従来は写生会を早めに切り上げて、各学級で入選作品を選定していたが、今年度はその選定を翌日のSHの時間に行ない、写生会には時間を充分とることができた。

2 学年裁量の時間の内容

(1) 自主製作(1年)

1)個性の伸長

生徒ひとりひとりが自主的にしかも興味を持っていることについて活動ができる。

2)普通授業の中ではできないようなものを、好きな者同志の集まりの中で集団(グループ)で活動

するなかで協調性を養う。

3)製作の喜びを感じながら活動する実践的な製作態度の育成をめざす。

以上の3点をねらいとしてSHを継続的に活用し、自主製作を行った。

○自主製作についての趣旨説明会（昭和54年11月24日(土) 於体育館 学年集会）

(1)ねらいについて

(2)グループ構成、人数について

- ・メンバーは生徒間での自然発生にまかせる。（同じクラスの中で）
- ・2人以上5人程度までが望ましい。
- ・男女混合のグループがあっても良い。

(3)活動計画表の作成、提出

- ・自主製作のために使うSHの時間は計8回、約8時間の予定であること。
- ・あまりに簡単にすぐ出来上るものはさける。（プラモデル式のものはいけない）
- ・経費がかかり過ぎたり、家でやらなくてはとても仕上がらないような大がかりなものも良くない。

(4)活動場所

- ・学校内でやることを原則とする。資料集めなどは時間外にやっておく。
- ・主な活動場所として、教室、技術室、家庭室、美術室、音楽室、図書室

(5)自主製作内容例

- ・壁新聞、年表作成、文集、作曲、版画、共同製作、統計（実態調査、アンケート）・観察記録・英語劇

(6)製作発表会の予告

3学期に入ってから製作発表会を行う。1年生全体集会の中で口頭発表、作品の展示、掲示などによる発表があるからまじめに、しっかりとしたものを製作し、発表の形態も考えておくこと。

(7)その他

発表のために必要な紙などは学校から支給するが、製作のための材料費はグループで負担することになるからあまり経費のかからないように工夫すること。

○自主製作計画表

活動の記録

題名 (内容)	活動場所		
グループ名(○印はリーダー)			
○組			
資料・材料 (数量)			
月/日(曜)			
11/24(土)			
11/28(水)			
11/30(金)			
12/1(土)			
12/15(土)			
12/19(水)			
12/21(金)			
12/22(土)			
発表会	発表のしかた	発表のための 準備用具	
/ ()			

○グループ構成と製作内容一覧

組,班	内 容 (題 名)	発表	人数	組,班	内 容 (題 名)	発表	人数
A 1	航 空 機 (主に飛行機のとぶしくみ)	掲 示	5	C 1	紙材による理想の建築物	展 示	5
A 2	金沢鉄道管理局内の国鉄	レポ ート	2	C 2	紙材による艦船工作	展 示	3
A 3	本校の模型、歴史	展 示	6	C 3	列車模型製作	展 示	4
A 4	第二次世界大戦について	掲 示	3	C 4	ホバークラフト作りと パラシュートの落ち方の研究	展 示	3
A 5	英語版の新聞を日本語に訳す	掲 示	6	C 5	作 曲 (リコーダー曲)	演 奏	8
A 6	壁 新 聞	掲 示	3	C 6	カレンダー製作 (切り絵)	展 示	6
A 7	童 話 模 型	展 示	3	C 7	モザイク製作	展 示	3
A 8	童話カルタ	展 示	6	C 8	詩集の切り絵	展 示	2
A 9	手ぶくろと小もの入れ	展 示	3	C 9	タオルの模様づけ	展 示	4
A10	付中生の好きな "○○○"	展 示	6	C10	お面づくり	展 示	4
B 1	日本歴史 (足利氏)	レポ ート	3	D 1	人物カタログ	レポ ート	4
B 2	確 率	レポ ート	4	D 2	おうちを作る	展 示	5
B 3	ゲーム製作	展 示	5	D 3	地上の歴史	展 示	2
B 4	トランプゲームを作る	展 示	3	D 4	パニシングクリーム (化粧品) 作り	展 示	5
B 5	富山港線、雷鳥について調べる	レポ ート	3	D 5	力をさぐる	レポ ート	5
B 6	モデルハウス	展 示	4	D 6	名前について	レポ ート	3
B 7	English book の製作	展 示	4	D 7	湿度計の製作と測定	展 示	2
B 8	英語の絵本づくり	展 示	6	D 8	各地の気温と B C L 調べ	展 示	4
B 9	マスコット作り	展 示	3	D 9	英語の絵本製作	展 示	3
B10	カレンダー製作	展 示	4	D10	グースおばさん (マザーグースの歌から)	展 示	3
B11	西暦2000年のカレンダー (こよみ)	展 示	4	D11	ゲーム工作 (正月の遊び)	展 示	4
				D12	English book	展 示	2

○自主製作発表会 昭和55年1月18日(金)5.6限 19日(土)3.4限

- ・口頭発表は各グループ3分程度で製作上の苦心点、見てほしい点、製作を終えての反省事項など全グループ必ず行う。
- ・口頭発表は学年全体集会の場で(家庭室)
- ・展示場所は会議室で、掲示場所は各教室の側面と後面
- ・口頭発表を聞いた後は、展示作品、掲示作品を自由に、ゆっくり見て廻ること。
- ・発表の日は2日間に分け初日は25グループまでにし、発表の順番は抽選で決める。
- ・発表のプログラムを印刷(グループ班名、グループ員名、内容)

○「自主製作を終えて」の感想文から(11月23日(水))

- ① みんなでグループに分れた。私も皆も今からする事に目を輝かせているようだ。皆との議論の結果「童話カルタ」を作る事に決定。私はなんてすばらしい案だろうと心の底からうれしく思った。……ところが数日後のSH、私は「カルタなんてできるのだろうか」と疑う気持ちでいっぱいになってきた。「あ」から「ん」までの音のつく標語のような感じの良い言葉は、なかなかむずかしく、私達はつつい遊んでしまった。そして、はっと気がついたのは後もう少して発表というところ。皆も大急ぎで仕事に取り組んだ。言葉ができると次は布で下書き通りの絵をはる所だ。途中で下書きをなくしたり、言葉を書いた紙をなくしたりで大きすぎ、だいたい下書き通りの絵になりましたが、全くちがうのもいくつかありました。そして最後の仕上げ、回りにテープをはる作業に移ります。テープにのりをつける人、テープをつける人、できたものを整理する人、どの顔も真剣にしている顔です。そしてとうとうでき上り。私は本当にこの「童話カルタ」を作った良かったと思いました。このカルタは一回使ったらこわれそうですけど、ただ印刷してあるカルタよりも何倍も何倍も真心がこもっているようです。私達はもうカルタを分けてしまったけれど、私としては一回でも良いから皆でカルタをやりたかったです。(A8班 辻まゆみ)
- ② ぼくらの班は学校の模型を作った。作り終わってみると以外にみんなからいいように思われていた。それで自主製作をしてよかったなあと思った。最初はとても能率が悪くてこんな大きなものができ上るだろうかと不安だった。それにテスト前でも家で受け持ちの部分をつくらなければならず、こんなことしなくてもいいのに……と思っていた。——中略——それでもぼくたちはいっしょうけんめいやった。そしてついに仕上がった。みんなはバンザイと手を上げたのではなく、ホッと息をすただけだった。みんなよほどつかれたらしかった。でも自主製作をやるととても良かったと思う。(A3班 金岡 幹)
- ③ 私達が製作したのは「英語の絵本」ですが反省すべき点が多いへん多くありました。とくに反省しなくてはならないのは日本語を英文に訳すところが難しく、わからない所を人に手伝わってもらったことです。今になって反省してもおそすぎますが「自主製作」なのだから、がんばって最後まで自分達の力でやりとげればよかったと思っています。その他にも製作中に内わもめがおこってグループの団結がくずれそうになったり、時間があまってふざけて遊んだりもしました。それでもどうにか作品が出来あがってみんなで一生けん命製作したのでよかったと思います。これからこのような機会があれば、今回よりももっと協力してよりよい作品を作り上げたいと思います。(B7班 次郎間千絵)

④ 自主製作の時間は、なにか僕にとっておもしろく楽しい時期であったような気がする。その理由
といえば、ぼくたちが作った物に影響するのではないかと思う。何をつくったかというゲームと
いうものを作った。その経過をふり返ってみると、まず、初めの2日間で第一のゲームができて、
そのあとそれで遊んだ。そこまでは、自分にとっても楽しい時間であった。でも、そのあとの発表
会がこたえた。僕は別に発表しなかったが、僕達の発表のとき、なんかはずかしい気持ちがたま
らなかった。その結果、なんか、このSHの時間がむだになったような気がする。このことにはあ
まり関係ないが、このような時間には気をひきしめて、あまりしゃべらないようにしたいと思う。
(B3班 野村英弘)

⑤ 私達の作ったカレンダー

私の作っていた1、2月の部分ができあがったときともうれしかったです。教室の中で「できた。
できた」と一人で喜んでいました。でも、カレンダーが6枚 1月から12月までそろって会議室に
はってあるのを見ると「なんでこのうちの1枚ができただけであんなに喜んだんだろう」と思うよ
うになりました。カレンダーは全部そろってこそ一つの確かなものになるのです。ちょっと考えた
だけでは、ばらばらに作ったようで、協同製作とは思えないかもしれません。でも私はそうは思
いません。これはカレンダーを作った私達6人みんなそんな気持ちだと思います。(C6班 大家幸
子)

⑥ 私たちはお面をつくりました。つくるのはむずかしかったけれど態度はどうだったかよくわかり
ません。おしゃべりばかりして、不まじめだったようだし、かといって仕事は意外とはかどって
いたからまじめだったような。特に反省すべき点といえば後かたづけや掃除です。

石こうを使用する作業ですので、きちんと後かたづけしなければかたまってしまうと始末しにくい
のです。それを何日も何日もほったらかしにしておいて固まってしまって4、5回先生にしかられ
ました。それから石こうが床におちるのでぞうきんがけをきちんとして後が白くならないように
しておかなければいけないのです。私たちはそれさえめったにしませんでした。今思えば後かたづけ
に点をつけるとすれば0点です。後かたづけをしっかりとしていたら今回の自主製作は100点とはい
わなければ90点ほどだったのになあと後悔しています。でも私たちはこの自主製作のおかげで
いろいろ大切なことを学びました。(C10班 山城 薫)

⑦ 私は班長をうけもったのですけれども班長らしい行動など、まとめやくもじゅうぶんつとめられ
なかつたので反省をしています。私のグループは他の2人と私で計3名でやっていました。

他の2人もきっと「へんな班長」と思っていたにちがいないと思います。またこんな機会があった
時には、今回のこの失敗をしないように中学生らしい行動力と頭をそれまでにたくわえておこう
と思っています。私たちは「名前について」やったのだけれど折角、長時間もらったので、もっと手
ごたえのあるものにすればいいと思いました。(D6班 松村 律)

⑧ 私達はバニシングクリームと化粧水を作りました。しかしみごとに失敗してしまいました。まあ
正直に言えば失敗の原因は作り方の説明をよく読まなかったからです。危険な薬品を扱う実験なの
によくまあこんなまぬけなことをやってのけたと我ながら感心してしまいます。

他の人は私達の作品を見て「わーっむずかしいことをやったんだな」と言っていました。私はそれ

を聞いたたびに困ってしまいます。計画を始めてから仕上がるまで実験の時をぬかして、すべて遊び半分だったのですし、おまけに実験もかなり易しく苦勞など全くなかったのですから。でも私はバニシングクリームや化粧水を作ってとてもよかったと思います。薬品の扱い方も覚えまし、化学への興味も増してきたからです。でももっとよかったと思うのは友達といっしょに、こんなに楽しいおもしろい実験ができたということです。(D4班 清水亨子)

○おわりに

“ゆとりの時間”を真に生かした活動の時間を願っての自主製作の試みであったが、生徒たちの活動には、それぞれ自由な姿の中に真剣に取り組んだもの、遊びに近い状態でこの時間を過したもの、あっちへ行ったりこっちへ来たりと他人の活動に気を取られて落ち着かないものなどいろいろな場面がみられた。教師の側は主体が生徒であるので指導者であるより、お手伝い役として相談に乗ったり、材料や用具の準備に手を貸すだけで、教科の時間では見られないような生き生きとした生徒の顔、姿を観察することが多かった。最初のグループ作りの段階では、製作の内容でよりも、親しい友達の集りになり、製作計画書の提出まではあまりスムーズな動きではなかったが、何をしても良い、好きなものを製作しても良いということによる開放された気持ち、製作の喜びなどから徐々に活動が積極的になり、SHの時間のベルと共に生徒の活動が自然のうちに始まる状態が見られた。グループの協力による製作という点では、うまくいかなかった班もあったようだが、製作発表会の場で他グループの様子など聞き反省の感を強くしたものもいた。でき上がった作品は経費をあまりかけなかったこともあって、そんなに立派でないものもあるが、その作品の中に生徒の苦心、努力のあとが充分にくみとれるものが多く、まじめに彼等なりにこの時間を活用した様子が窺われて喜んでいる。

(注) 自主製作、自主制作と2通りの漢字が使われているが、本校では製作で統一して使っている。

(2) ジョギング・読書(2年)

○ジョギングのねらい

1)基礎体力の向上

走ることが体力づくりの基本であることを知りながら、そのことにかかる時間は少ない。スタート当時まだ耳なれないジョギング(Jogging)をとりあげた。

2)強健な意志力の育成

電車・バス・自転車等による通学の毎日は、機械に依存しているだけに、無気力になり自己の意志がともなわない。自分の足で歩く、走る確かめの時間が必要になる。ジョギングは自分の体を自分の意志で運転するから、自己の体力にかなった自己の意志力を確かめ強めて行くものである。

3)自己のペースを知り、みんなで走る喜びを味わう。

一人で走るより、多勢で走る方が楽しく、お互い励みにもなる。集団の中で自己のペースを知り、無理をしないうで徐々に記録を伸ばして行く。

以上3つの点をねらいとして、SHの前半ジョギングを行った。

○実施のあらまし

- 1) 体育の服装に着更えて運動場に集合する。
- 2) 準備運動をする。
- 3) 一周 200 m のコースを15分間走る。(従って走行距離は生徒により個人差あり)
- 4) 整理運動をする。
- 5) 教室に入って、SH記録用紙に、走行時間、距離、感想文を書き提出する。
 - ・ 時には男子・女子別々に走らせたり、混合で走らせたりして変化を試みたが一部生徒の感想文にもあるように、男女お互い観察されることを意識して、あまり歓迎されなかった。
 - ・ 途中で疲れた者は走る人の邪魔にならないように歩かせ、呼吸を整えさせてから再び走る流れに入らせた。
 - ・ 計時は教師が当り、30秒ごとに通告した。
 - ・ 教師も年齢・男女を問わず生徒と一緒に走る様心がけた。
 - ・ 雨天の場合は、各教室で修学旅行(11月27日～30日実施)のための予備学習として準備したVTR番組やNHKテレビ「中学生の広場」を視聴した。

○その記録

- 1) 実施の回数 7回 参加人数 生徒179人 教師 7人
 2) 学期に実施した4回分については、1表のような簡単な記録用紙に、生徒自身が走った時間・距離・感想を記録させたので、参考までにその一部を紹介したい。

1表

月 日 曜 限・氏名		
ジョギング	VTR・読書	学校行事
分	番組	内容
または	分	
m	書名	
	ページ	
感想		
.....		
.....		
.....		
.....		

2表

実施月日	9月 5日	9月 8日	9月 22日	10月 26日
走った時間	15分	15分	10分	15分
最高距離	男 3,600 ^m	3,750 ^m	2,850 ^m	3,900 ^m
	女 3,000	3,650	2,400	3,200
最低距離	男 1,500	1,200	600	1,800
	女 2,000	2,000	700	1,200
平均距離	男 2,757	2,876	1,943	2,808
	女 2,232	2,798	1,691	2,265
不参加 (見学)	男 6%	7%	11%	12%
	女 15	13	8	22

2) 走った時間と距離

7回とも走行時間は10～15分である。「1周200m1分」を一つの目標に置くことができるようである。2学期に実施した結果を2表にあげてみた。15分間最高距離は、男子3,900m(19.5周)女子3,650m(18.25周)であり、両者とも部活動で走り慣れている生徒である。最低距離の男

女の差は、持久力の差か性格の差か、これだけでははっきりしない。

不参加（見学）の生徒を見ると、体育の服装を忘れた者、風邪ぎみな者いろいろあるが、男子9%、女子15%とどうしても女子が多くなる。これは一般的な傾向であろう。

走行距離は回を重ねることに伸びて行くが、波形を示しながら徐々に上昇して行くと予想される。

3) 走行距離による分布

走行距離別に見た生徒の到達分布表は3表に示した通りである。男子3,550～4,000 m 9月5日1.5%が10月26日15%になったこと、女子2,050～2,000 m 10月26日78%に集中したことが注目される。

3表

走行距離	性別	9月5日	9月8日	9月22日	10月26日
3,550～4,000 m	男	1.5 %	8 %	— %	15 %
	女	—	2	—	—
3,050～3,500	男	27	39	—	17
	女	—	15	—	2
2,550～3,000	男	54	44	13	39
	女	48	64	—	6
2,050～2,500	男	13	5	35	17
	女	41	15	29	78
1,550～2,000	男	3	2	33	12
	女	11	4	29	11
1,050～1,500	男	1.5	2	15	—
	女	—	—	38	3
550～1,000	男	—	—	4	—
	女	—	—	4	—

4) 生徒の感想文から

①昼休み、おなかが痛かったので体調がよくなかった。森君について行こうと思ったが、5周したところで差がでてきた。走る距離がふえるごとに足が重くなって来た。今度試合があるのでもうちょっと体力をつけなければいけない。

（9月5日 15分

3,450 m 三浦篤二）

②いつもなら15分通して走るのだが、夏休み中の運動不足がたたってもうめためた！真中ぐらいで腹痛になってひどかった。次の金曜こそは15周（3,000 m）突破してやりたいのだ!! わたしが孤独に走っているとき、男子がどンドン、いや女子までもが追い越して行くのを見て、なんともみじめになる。いやはやもうめちゃくちゃ!! でもジョギングってみんな「いやだ」「いやだ」っていつてるけど、走り終わったあとは快いものだ。（9月5日 14分 2,600 m 長野裕子）

③体操服を忘れて走れなかった。みんなが走っているのに私は……とばかり考えていた。15分がとても長かった。今度は絶対走らなくては……。 （9月5日 0 m 長岡 緑）

④久しぶり長距離を走った。足の疲れより、肺の方がひどくなったので、どうしても15分間続けられなかった。それから1人で走るより友達と一緒に走る方が楽しく気も楽だった。

（9月5日 14分 2,300 m 埴田敦子）

⑤5月より700 mも多く走ったし、休む時間も少なくなった。この次は15分間ずっと走ってみようと思う。こんなに体力がついて行くなんで、なんかとってもオモシロイような…… 体力がもっともつてほしい。

（9月8日 14分 2,700 m 福井章子）

⑥今日も先日と同じ距離を同じ時間同じペースで走った。金岡先生や松本先生が、ゆうゆうと走っていたので感心しました。途中休むことが多いので、まだ自分のペースをつかんでいないと

思い、これから気をつけようと思った。 (9月8日 13分 2,600 m 新橋江美)

⑦運動会の練習の後でとてもつかれていたのに走らされてしまった。先生のあほ!!

(9月22日 10分 2,000 m N子)

⑧男子と女子とわかれて走ると、視線が気になるし、気になった男子は女子の前まで来ると急にスピードをあげて走るから、ジョギングにならないと思う。疲れたァー 助けてェー おかあさん。

(9月26日 12分 2,4000 m 松浦祐子)

5)まとめと反省

生徒の感想文にあるように、相手を意識するばかり自己のペースを乱し、競走になってしまう生徒が数人いた。先生に「走らされている」感覚の生徒が何人かいることもさげられない事実である。ジョギングが体育の延長のように錯覚している子も居る。SHの本当のねらいが理解されていない向きがあって反省させられる。「走って爽快!」「今度こそ目標を!」「もっと体力をつけたい」等の文を見つけると、正直いって嬉しくなる。

SHの指導は、とすると学級担任に片寄りがちであるが、ジョギングのような一斉指導の場合は、指導も責任もそれぞれお互いに分散されるような格好で、その点良いのではなかろうか。SHの時間は、指導者が「ゆとり」を感じるどころか「益々負担」を感じるような「ゆとり」になってはならないと思う。

○読書のねらい

1)読書に親しむ機会はなかなかつくれないものである。受験一辺倒におちいりやすい昨今、SHの時間を読書にあて、一冊の本を読み通させ、じっくり物を考えさせる時間にする。

2)与えられた時間、自主的に静かな読書ができる習慣をつける。

○実施の方法

天候や学校諸行事の関係上、ジョギングに不向きの後半を読書にあてた。

生徒各自が、現在読んでいる本を持参し、SHの時間各自静かに読書する。本を忘れた生徒には、図書室で借りてくる、教官室にある文庫本を借りてくるなどさせた。途中、読書感想文を書かせ、見せかけの読書に終らぬようにつとめた。

教師は、読書中付ききりの指導をするのではなく、代わる代わる時間を見ては、巡視するにとどめた。

○どんな本を読んでいるか

いろいろ本を分類してその読書傾向を知るのも一つの方法で資料になるが、今回は1クラスの本の一覧表をあげるにとどめておきたい。

2年A組	1回目(12月22日の感想文)	2回目(1月16日)
1 石井 彰一	宮沢賢治集(宮沢賢治)	ガンジー伝
2 木田 弘誠		青春
3 呉藤 城久	ある大統領の死	滋 賀
4 佐藤健太郎	アルセーヌルパンの第2の顔 (ポワロー・ナルスジャック)	シャーロックホームズの帰還 (コナン・ドイル)
5 島林 正弘	父への手紙	SAS/イスタンブール潜水艦消火
6 杉本 直俊	山 椒 魚(井伏鱒二)	天文年鑑(日本気象協会)
7 隅田 努	夕ばえ作戦(光瀬 龍)	SF英雄群像(野田昌宏)
8 竹内 克人	神 統 記	飢餓列島(福島正夫、眉村 卓)
9 土屋 勝裕	闘牛士の栄光(R.ロビンソン)	バイキング
10 寺井 克幸	屋根の上のサワン(井伏鱒二)	惑 星
11 寺山 浩康	西 遊 記	斑鳩の道
12 鍋島 茂之	宮 本 武 蔵(吉川英治)	次郎物語(下村胡人)
13 南波常太郎	ぼくらの時代(栗本 薫)	さらば快傑黒頭巾(庄司 薫)
14 則竹 君彦	バラと拳銃(イアン・フレミング)	危 険(イアン・フレミング)
15 幡野 将広	暁はただ銀色に(光瀬 龍)	ヒマラヤの村
16 平田 秀也	杜 子 春(芥川龍之助)	神への長い道(小松左京)
17 宮崎 裕	青 春	古典落語「しの字ぎらい」
18 村松 俊哉	蜘蛛の糸(芥川龍之介)	杜 子 春(芥川龍之助)
19 山下 直秀	新選組始末記(下沢 寛)	杜 子 春(芥川龍之助)
20 緩詰 良彦	火の国 ヤマトタケル(豊田有恒)	火の国 ヤマトタケル
21 横山秀一朗		坊ちゃん(夏目漱石)
22 吉岡 幹宏	「妖精配合会社」より遠大な計画 (星 新一)	聖書名言集より「正しい政治」
23 和田 紀久	A B C殺人事件(アガサ・クリスティ)	帰らざる日々(アリス)
24 今井恵美子	源氏物語(紫式部、円地文子)	家なき子(マロ)
25 今村かほる	アンネの日記(アンネ フランク)	紫 式 部
26 岡田優利江	チップス先生さようなら	太 郎 物 語(曾野綾子)
27 尾川 知恵	とびらをあけるメアリーポピンズ	手のひら島はどこにある(佐藤さとる)
28 奥田千香子	15歳の遺書(アリス)	老人と海(ヘミングウェイ)
29 加川 千裕	あなたはまちがっている(犬養道子)	翼を心につけて
30 釜林 晴美	屋根の上のサワン(井伏鱒二)	山 椒 魚(井伏鱒二)
31 北中 文子	閉ざされた時間割(眉村 卓)	SFつくられた明日(眉村 卓)

2年A組	1回目 (12月22日の感想文)	2回目 (1月16日)
32 耕田 慶子	LOVE STORY (エリックシーガル)	そして誰もいなくなった (アガサ・クリスティ)
33 高岡 恵	にせアカシアの花	私自身のアメリカ (池田満寿夫)
34 高桑 美佳	死体がゆっくりやってくる (谷田秀二)	微笑のうしろに (佐藤愛子)
35 高松 美砂	月光魔鏡を射る (眉村 卓)	禁じられた手紙 (佐藤愛子)
36 豊田 莖子	ハムレット (シェークスピア)	大 地 (パールバック)
37 道林 尚子	ぼくの肌は黒い	坊 ちゃん (夏目漱石)
38 中川 正子		地 獄 変 (芥川龍之助)
39 中山 理美	「A LIVE」	THE HYNEK UFO REPORT
40 笛田美佐子	風立ちぬ (堀 辰雄)	命ある日 (芹沢光治良)
41 本田 直美	ひと夏のおとうと	四つの署名 (コナン・ドイル)
42 松浦 祐子	イエス様の一生	わんぱくニコラ
43 森 小百合		人形の家 (イプセン)
44 山本 治美	アーサー王物語 (グリーン)	生者と死者 (エラリー・クイーン)
45 若狭 依子	ぼくの姉さん	野菊の墓 (伊藤左千夫)

2年A組	3回目 (2月2日)	4回目 (2月23日)
1 石井 彰一	ホラーSF傑作選 (豊田有恒)	シャーロックホームズの帰還 (コナン・ドイル)
2 木田 弘誠	腐蝕の構造 (森村誠一)	赤い蜂は帰った (森村誠一)
3 呉藤 城久	悪魔のいる天国 (星 新一)	マイ国家 (星 新一)
4 佐藤健太郎	謎 の 家 (モーリス・ルブラン)	水 晶 栓 (モーリス・ルブラン)
5 島林 正弘	坊っちゃん (夏目漱石)	白い服の男 (星 新一)
6 杉本 直俊	太郎物語大学編 (首野綾子)	塩 狩 峠 (三浦綾子)
7 隅田 努	二重太陽系死の呼び声 (ニールR ジョーンズ)	惑星ゾルの王女 (ニール・R・ジョーンズ)
8 竹内 克人	気まぐれ指紋 (星 新一)	ソラリスの陽の下に (スタニスワフ・レム)
9 土屋 勝裕	和 解 (志賀直哉)	零戦式戦闘機 (吉村 昭)
10 寺井 克幸	Oヘンリー短編集 (O・ヘンリー)	ゼロの焦点 (松本清張)
11 寺山 浩康	午後の恐竜 (星 新一)	戦 う 人
12 鍋島 茂之	生きとし生けるもの (山本有三)	風 林 火 山 (井上 靖)
13 南波常太郎	太 郎 物 語 (首野綾子)	太郎物語 (高校編) (首野綾子)
14 則竹 君彦	007号の著者イアン・フレミングについて	

2年A組	3回目 (2月2日)	4回目 (2月23日)
15 幡野 将広	便所の神様	異次元失踪
16 平田 秀也	現代青春論(ロバート・ジョンソン)	宇宙のごあいさつ(星 新一)
17 宮崎 裕	午後の郷愁(星 新一)	
18 村松 俊哉	ねじれた町(眉村 卓)	十五少年漂流記
19 山下 直秀	夜の世界(五木寛之)	夜の斧(五木寛之)
20 緩詰 良彦	金曜日の子供	狂気の世界
21 横山秀一朗	馬	海底二万マイル(HG ウェルズ)
22 吉岡 幹宏	黒の放射線(中尾 明)	ケネディ名言集
23 和田 紀久	三 国 忠(吉川英治)	ノストラダムスの大予言(五島 勉)
24 今井恵美子	太陽の絵筆(藤沢友一)	パン屋のおやじは考える
25 今村かほる	シャーロックホームズ(コナンドイル)	ノストラダムスの大予言(五島 勉)
26 岡田優利江	つくられた明日(眉村 卓)	細川ガラシャ夫人(三浦綾子)
27 尾川 知恵	ピーターパン	パイプのけむり(団 伊玖磨)
28 奥田千香子	愛 (井上 靖) 女ごころ(モーム)	論語物語(下村湖人)
29 加川 千裕	野 火 子(五木寛之)	四角な船(井上 靖)
30 釜林 晴美	鯉 (井伏鱒二)	多 甚 古 村(井伏鱒二)
31 北中 文子	ねじれた町(眉村 卓)	ノストラダムスの大予言
32 耕田 慶子	坊ちゃん(夏目漱石)	オリエン特急行の殺人(アガサ・クリステイ)
33 高岡 恵	太郎物語(曾野綾子)	ワンパクニコラ
34 高桑 美佳	あなたにそっくりの中のポチと人間 (佐藤愛子)	ぬすまれた手紙(眉村 卓)
35 高松 美砂	無 姫(森 鷗外)	ナイチンゲール
36 豊田 莖子	大 地(パール・バック)	
37 道林 尚子	にんじん(ルナール)	花のワルツ(芥川龍之助)
38 中川 正子		流れる固体(中川鶴太郎)
39 中山 理美	シャム双生児の秘密(エラリー・クイーン)	悪魔のいる天国(星 新一)
40 笛田美佐子	女に生れて(芹沢光治良)	こころの窓より、オリンピック騒ぎ (芹沢光治良)
41 本田 直美	カルメン	野 菊 の 墓(伊藤左千夫)
42 松浦 祐子	わんぱくニコラ(ゴシニ)	死神博士
43 森 小百合		異 邦 人(カミュ)
44 山本 治美	快傑ゾロ(ジョストン・マッカレー)	少年マルコポーロの冒険(竹内日出男)
45 若狭 依子	小 公 女(バーネット)	風と共に去りぬ(ミッチェル)

○感想文から

「この本はずい分前に買ったものだが、なかなか読む機会がなく、10ページ程度読んではやめ読むではやめていた。ところが学校で、たまたま読む気になり一気に読んでしまった。……(尾川知恵)」と書いているように、SHの読書設定が、この生徒にとって読みかけの本を一気に読破させるというきっかけを作っている。「ゆとりの時間」という性格上、中学生の読書傾向や内容などについて論ずることは的をはずすことになるからここではさげたい。生徒達は教室での読書の中で、何を考えたか、次の感想文からくみとっていただきたい。

①「森繁自伝」を読んで 森繁久弥著 小林 学

この本は、お父さんの古い本の中からひっぱり出した一冊である。ぼくはこういう芸人に興味を持っていたのでとても面白かった。満州で苦労した話、その苦しさがひしひしと伝わって来た。テレビで「三男三女婿一匹」の森繁さんかと思うと、おかしくもなったり、感心したりした。「自伝」ということで、あまりくわしい感想は一口にいえないが、これだけのことをしないと大成しないという人生を少し教わったような気がする。ここで出てくるいろんな「座」はさっぱりわからないが、あの人がこんな所で……と思うことは確かである。満州からの千円が万になり、ついに一千万というふうになったのは、やはり森繁さんが偉大だったからなのか？

偉い人の話など、世界・日本に数々の名作があるが、それを読むのより、感心し充実した心になったのは、これが最初である。

②「女の一生」を読んで 山本有三著 長野裕子

結婚。そして出産、育児。そんなことを私が言うと、友達に笑いだすかもしれない。確かに中学校生活を目いっぱい過ぎ、受験をひかえている私たちには、まるで早過ぎる話題だ。しかし、この本を読み終えてからの私にとっては、この課題は必ずしも遠い存在であると言い切れないのだ。「女としての自立」「自由な女の生活」など世間ではいっている。なるほど職業を持ち一人の人間として社会の中でもまれて生きていくことは人間の生きがいかもしれない。かくいう私も大人になったら医師になりたいなどという夢をもっている。しかしそれと同時に、前々から早く子供を育ててみたいという願望も強かった。女にとって結婚とは？ という問いを出すと、皆は「一生の一大事」と答える。だが私は「それはぜったい間違いだ。」といいきれる。それどころか「単なる一事件」とさえ考えている。そして家庭にしばられる。この「しばられる」という言い方はおかしいかもしれない。私の場合は「人生の喜び」の一部だと思っているのだから……。

今まで偉そうなことを述べてきたが、結局私は、人生というものも人間というものも勿論よく知ってはいるのだ。でも私は私なりにこの本を読んで、女としての生き方から一人の人間としての生き方が、ほんの少しわかりかけてきたのである。

③「友情」を読んで 武者小路実篤著 広瀬伸一

友 情

友情／ 一生死なない／ 時には争う／ 納得いくまで戦う／ 一層深まる／ 運命／ 絶対逆らえない／ 友情をもって／ 友情と運命／ 初めて幸が生まれる／ 初めて不幸が生まれる／ だがそれを乗り越えた時／ 人は強まる／ 友情によって／ 真の友情／ 世界の人類／ 生物よ／ それを持って／ 強くなれ

④「パイプのけむり」を読んで 団 伊玖磨著 尾川知恵

これは有名な音楽家団伊玖磨氏の随筆である。とはいってもこの本の題名と著者名しかしなかった私が、どうしてこの本を読むことにしたかという、一月頃「文化講演会」をテレビで聞いていた

ところ、偶然団氏が講演していたのである。その話のおもしろいことといたら、私には縁の遠い教育テレビにくぎ付けになった。初めは10分だけと思っていたのに、もう少しもう少しと30分以上の講演全部を聞いてしまった。その時母が、「あの人は『パイプのけむり』を書いている人でしょ」と言ったのが縁で、書店にかけこんだのである。

内容はたわいないものようで、社会に対する自分の考えが明確に書かれている。そのほとんどに私は共感する。(時には絶対反対もあるが……)カレーライスを食べ過ぎは声に悪いことや海水浴場がどんなにきたくないかということや、米国製義歯は英語の発音が良くなるとか、陸軍車楽隊時代の話。全部あげていると紙面がなくなるので、この辺で。皆さんにもすすめたい本であることは確かだ。

○まとめと反省

生徒の感想文を読んでも気がつくが、本を読もうとするきっかけは、周囲の意外な刺激がそうさせていることである。「ゆとり」だから本を読めといわれたから一応図書室から手当たり次第に一冊持って来るが、読む意欲がない。教師が巡視にまわった時だけ、自分の席で神妙な顔つきで本をながめている。そんな生徒は必ず居る。しかし大半はSHという時間に刺激されて、読みかけの本を読み、親父のお古が偶々刺激して読む気になり、見るとはなしに見たテレビが本屋へ走らせているのである。「ゆとり」は、それ程むづかしく考えないで、一寸生徒に刺激を与えるという意味で、ジョギングならジョギング、読書なら読書という時間を継続してやらせる刺激の積み重ねができれば充分でなかろうか。ゆとりの充実感は、個々人が味わうもので、個人差がある。刺激の設定はある一定の範囲内で、少なくとも学年一単位一斉に指導できるものでありたい。生徒が勝手に動きまわる設定は、いくら「ゆとりの時間」とはいえ指導困難と言わざるをえない。

(3) 自主研究(3年)

1)自分の趣味をより深く伸ばす。

日頃の自分の趣味についてまとめる一つの機会となる。3年生になると各自の趣味は個人差が非常に大きく、なかには中学生の域を脱している者もある。各自の実情にそくしたように自由に研究を進めていく。又日頃疑問に思っていることで未解決のままになっていることの答えを見出すよい機会ともなる。

2)自分の興味の対象となるもの、段階に合ったものを選択し、研究する。

教科の延長線上からこの自主研究をながめた場合、教科の学習内容に対してより深く興味を抱く生徒、少しずつ抵抗感が増していく生徒など、その生徒の程度に応じて一歩進んだ探究心を満足させる機会ともなるし、自分ながらに何とか繙き興味づけをするよい機会ともなる。

3)協調性を養う。

グループの形式で研究をするとき1メンバーとして、あるいは種々のことを思い思いにやっている一つの部屋のなかで、継続的に自分が研究を続けていくときには、どうしても協調性が必要となる。又発表会を通して自分がそれまで知らなかった級友の新しい発見にもつながるものと思う。

4)各自が自分ってやってみようと思うことを選択し、継続して研究することは自主的な学習習慣を身につけるということからも大切なポイントとなる。

以上4つの点をねらいとして自主研究を行った。

○全体計画の説明及び立案

(1)テーマについて

- ・研究のテーマは1学期の継続でも、新たに設定したものでよい。(この点についての詳細は頁「まとめ及び反省」を参照)
- ・自主研究に使うSHの時間は合計9回(約10時間)の予定である。
- ・9回で終了するような計画をたてる。(あまり簡単なもの、逆にどうしても家へ持ち帰らねば仕上らないような大作は避ける。)

(2)グループ構成、人数について

- ・研究は個人でも、グループでもよい(ただし5人以上のグループは避ける)
- ・グループを作る場合原則として同じクラスの者同志とする。

(3)活動について

- ・活動場所は校内とする。(ただし晴雨にかかわらず活動できるものを設定する。)
- ・学校の備品を使用する場合は必ず許可を得る。

(4)計画表作成、研究物提出について

- ・計画表は11月30日(金)に提出。それまでに立案しておく。30日からすぐ調査・研究にとりかかれるように。
- ・研究物はレポート用紙15~20枚程度にまとめる。製作の場合には作品に5~6枚程度のレポートを添付して提出する。
- ・3学期になって発表会をする。

○計画表

自主研究計画表	
()組()番()	
1.テーマ	11月30日(金)
2.このテーマを選んだ動機・理由	12月1日(土)
3.参考図書	5日(木)
4.この研究を進めるにあたり、特に指導を受けた先生があればその先生の名前 ()先生	7日(金)
5.グループで研究をする場合、そのグループのメンバーの名前	8日(土)
7.その他(学校の備品、必要な材料等)	15日(土)
	19日(木)
	21日(金)
	22日(土)

○計画表例

<例 1>

<u>自主研究計画表</u>	6. 計画表
A組 19番 三田哲也	活 動 内 容
1. テーマ 真空管とトランジスターについて	11月30日(金) 三極真空管
2. このテーマを選んだ動機・理由 理科、技術で習ったところをより深く研究したかった。	12月1日(土) 四極真空管、五極真空管
3. 参考図書 電気の学校⑥ 「すばらしい電気の動き」(ポプラ社)	5日(水) 予 備
4. この研究を進めるにあたり、特に指導を受けたい先生があればその先生の名前 (なし)先生	7日(金) 半 導 体
5. グループで研究をする場合、そのグループのメンバーの名前 松栄立也、和田有司、新名孝至	8日(土) トランジスター
	15日(土) 整 流 回 路
	19日(水) 増 幅 回 路
	21日(金) 予 備
	22日(土) 予 備
	7. その他(学校の備品、必要な材料等) なし

<例 2>

<u>自主研究計画表</u>	6. 計画表
B組 42番 横山琴代	活 動 内 容
1. テーマ 正多面体の体積を調べる	11月30日(金) 正多面体について調べる
2. このテーマを選んだ動機・理由 前に知りたいと思ったことがあったので、この機会に調べることにしました。	12月1日(土) 正四面体の体積を調べる
3. 参考図書 数学の参考書2~3さつ	5日(水) 正六面体・正八面体の体積を調べる
4. この研究を進めるにあたり、特に指導を受けたい先生があればその先生の名前 藺 森 先生	7日(金) 正八面体の体積を調べる
5. グループで研究をする場合、そのグループのメンバーの名前 なし	8日(土) 正十二面体の体積を調べる
	15日(土) ”
	19日(水) 正二十面体の体積を調べる
	21日(金) ”
	22日(土) ま と め
	7. その他(学校の備品、必要な材料等) 発表のときOPHが必要

<例 3>

<u>自主研究計画表</u>		6. 計画表	
C組 35番 増永裕加子		活 動 内 容	
1. テーマ 英語の本を訳す 2. このテーマを選んだ動機・理由 ・英語が好きだから ・一番やりやすいから 3. 参考図書 O. Henry The Last Leaf The Gift of the Magi 4. この研究を進めるにあたり、特に指導を受けた先生があればその先生の名前 平松先生 5. グループで研究をする場合、そのグループのメンバーの名前 なし	11月30日(金)	1時間 2～3頁ずつ	
	12月1日(土)		
	5日(休)		
	7日(金)		
	8日(土)		
	15日(土)		
	19日(休)		
	21日(金)		
	22日(土)		ま と め
			7. その他(学校の備品、必要な材料等) なし

<例 4>

<u>自主研究計画表</u>		6. 計画表	
A組 43番 宮崎 智		活 動 内 容	
1. テーマ 結晶をつくる 2. このテーマを選んだ動機・理由 前々から興味を持っていて、一度つくってみてなかったので、この機会を利用した。 3. 参考図書 「結晶の科学」 4. この研究を進めるにあたり、特に指導を受けた先生があればその先生の名前 川口先生 5. グループで研究をする場合、そのグループのメンバーの名前 喜多芳子	11月30日(金)	飽和水溶液をつくる(1部種にする)	
	12月1日(土)		放置、飽和溶液をつくる
	5日(休)		種をいれる
	7日(金)		観 察 (水溶液の不足を補う)
	8日(土)		" (")
	15日(土)		" (")
	19日(休)		" (")
	21日(金)		" (")
	22日(土)		取り出す
			7. その他(学校の備品、必要な材料等) 硫酸ニッケル六水和物 $\text{NiSO}_4 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 水 100 cc に薬品 115 g ビン、ガーゼ、ミシン糸

○研究例（A、B組2クラス分）

国 語 関 係	現代ものはづくし	1組（1名）
	世界文学めぐり	2組（2名）
	古典に親しむ	6組（8名）
	フランス文学	1組（1名）
	S F小説を書いている	3組（3名）
	未来S F地球紀行	1組（1名）

社 会 関 係	西洋の服装史	1組（2名）
	地理模型の製作	1組（2名）
	貨幣の歴史と種類	1組（2名）
	偉人とそのエピソード	1組（1名）
	地理を覚える	2組（3名）
	歴史年表を作成	4組（7名）

英 語 関 係	日本の童話を英訳する	1組（3名）
	英語の物語を読む	6組（9名）
	英語の絵本を作る	1組（2名）
	英詩について	1組（1名）
	英単語・連語の整理	2組（3名）

理 科 関 係	プールの中のプランクトン調査	1組（2名）
	ツボと快楽（人体の驚異）	1組（2名）
	煙草が人体に及ぼす影響とそのよい楽しみ方	1組（1名）
	星座にまつわるギリシャ神話について	1組（1名）
	天気図の作成	2組（2名）
	結晶を作る	1組（2名）
	真空管とトランジスター	2組（5名）

そ の 他	ピアノソナタ作曲	2組（2名）
	世界の怪奇事件を探る	2組（2名）
	TVアニメの研究	1組（1名）
	鉛筆の六面の確率について	1組（1名）
	ロックとその部分的分析	1組（2名）
	映画の研究	2組（2名）
	人生について考える	1組（3名）
	モードファッションの研究	1組（1名）
	画家と名画に親しむ	1組（1名）
	正多面体の体積を調べる	1組（1名）

○まとめ及び反省

3年生の自主研究は1学期末にも実施されたが下記に述べる2つの理由のために、不本意な結果で終わった生徒が多かったようである。

- 1) 1学期のSHは月・火・水・金と週4回あったが、1回の長さは30分間であった。グループによっては準備ができるまでに10分近くもかかり、後始末の時間も考慮すると30分間ではあまり調査・研究が進まないということもあった。
- 2) 学校行事、学年行事などでSHを優先的に使う計画を立てたため、自主研究は残った時間がそれにあてられた。そのため、10日近く空白ができてたりして生徒自身研究に集中することができなかつたようである。

2学期の自主研究は1回が50分間となり、最初から集中的にできるように計画をたてたので成功したようである。生徒には12月22日を提出日とし、厳守させ、期限までに仕事を完了する態度を養わせようと試みた。実際には翌々日に返却し、冬休み中に発表ができるよう再整理、まとめを指示した。3学期になってからの各クラス毎の発表会も2週間の整理・準備期間があったのでスムーズに進んだ。1人5分間程度と発表時間を制限したが、それ以内に終わる生徒は少なく、ほとんどが時間オーバーする程で、非常になごやかなうちに発表会を終了し成功した。ただクラス発表の次の段階として、各クラス数名（グループ）による学年発表会もする予定であったが、受験シーズンに入ってしまう、その時間がとれなかったのが残念であった。

教師側の指導体制は、原則として毎時間1人ずつ交代で教室を回り、生徒からの質問、相談に応ずるようにした。"自主研究"ということで生徒は自分達が主体であることをよくわきまえており、教師は授業中には見られない生徒の交友関係を知らされたり、生き生きとした生徒の顔を観察したり、質問や相談に応ずるつもりであったが、生徒の観察期間となった感もある。2学期末という時期から判断して、スタートする前には教師側には、自主研究を受験勉強の一環として利用したり、休息の時間として割り切り、何もしようとしない生徒が出るのではないだろうか等の心配があった。しかし、実際にスタートすると、そうした生徒はほんの1、2名で、全体としてはまじめに取り組んでほったものである。生徒の取り組みにもさまざまなタイプがあった。後半に集中的にやる生徒。最初からコツコツとやる生徒。グループの間にはさまれて、一人で黙々とやる生徒。生徒の個性を観察できて教師としてもおもしろい期間であった。

自分の実情に合わせ、自らに課題を課し、自主的に研究を続けることにより、生徒のために真の「ゆとり」の時間になるように願った自主研究であるが、生徒の研究物を手にして、彼等のまじめさが伝わるようで喜こんでいる。学校外にも活動場所を広げて欲しいという生徒の声もあり、参考書不足、より実りある研究にするための指導体制、等数多くの問題もあり、今後の課題としたい。

(4) その他の学年裁量時間の内容

1) 1学年

基本的な生活態度の指導、視力・聴力・色覚検査、団体行動の練習、昨年度合唱コンクールVTR視聴、学級会、学年集会、今年度合唱コンクールVTR視聴、夏季休暇中の心得の説明、ポスター制作、一泊旅行オリエンテーション、一泊旅行のためのフォークダンス練習、運動会の選手選出、一泊旅行の反省、卒業式の歌の練習

2) 2学年

基本的な生活態度の指導、写生会準備、今年度合唱コンクールVTR視聴、教官との親睦球技大会、ポスター制作、修学旅行VTR視聴、修学旅行予備学習、修学旅行の感想文を書く、卒業式の歌の練習

3) 3学年

兼六園散歩(花見)、総合テストのための自主学習、観能、映画鑑賞、グラウンド整備、遠足(城下町みて歩き)のオリエンテーションと計画立案、卒業写真撮影、市合同音楽会の練習及び出場、知能テスト

3 「SH」の時間の指導担当者

「SH」の時間の指導担当については全教官が担当するのを原則としている。自主研究、自主製作、自主学習等は全教官が分担した。生徒個別懇談、体重測定、写生会の作品評価、入学時のオリエンテーション等は学級担任が担当した。年間を通してみると、学級担任の担当時間数が多くなった。全教官が平等に分担するという原則はあるが、学指・学活的内容のSHであればこの原則を通すにはやはり無理があるようである。

V 「SH」と他の教育活動との関連

1 「SH」と「学指・学活」、「クラブ活動」との関連

「学指・学活」と「クラブ活動」は、木曜日の5限、6限にとっている。天候や施設の関係があるので4月から11月まで毎週2時限続きで「クラブ活動」を行う。12月から3月まで毎週2時限続きで「学指・学活」を行なう。

(1)「学指・学活」との関連

従来「学指・学活」の時間には、新入生のオリエンテーション、講演会、映画鑑賞、観劇、音楽鑑賞、主張大会、合唱コンクール、球技大会、学級会活動、全校集会、個別懇談会、それにP88でのべた生徒会役員選出や公聴会、各種委員会などの生徒会諸活動を行ってきた。この一部をSHの時間に行なった。特に、4月から11月は「クラブ活動」としているため、「学指・学活」が不足がちであったが、SHの時間をそれにあてることによって、その時間が確保されて好都合であった。12月から3月は「学指・学活」が毎週2時間あることになるが、主張大会や冬季球技大会などの行事にあてた他は、学級会活動が主なもので、各学級で生徒がその時間の使い方を計画して、活動した。本校で実施しているSHの内容は、指導要領で示されている「特別活動」に含まれるようなものなので、「学指・学活」とSHの内容や性格の違いはないといえる。講演会や観劇などを時間割のどこで行うかによって、「学指・学活」にもなったり、SHにもなったりするだけで、その区別はない。従って、本校の場合には12月から3月の「学指・学活」（2時限続き）とSHの時間とをあわせてその運営を検討してみるのも一案であろう。

(2)「クラブ活動」との関連

クラブの種類は下記の通りである。活動の成果は11月に行う文化祭で作品の展示発表、舞台発表で行う。

ク ラ ブ 活 動

全生徒数525名

	クラブ名	指導者	生徒数		クラブ名	指導者	生徒数		クラブ名	指導者	生徒数
1	書道	横西	8	9	染色	沢村	21	17	百人一首	高野	17
2	社会	石野	20	10	生花	大谷	13	18	オリエンテーリング	森田	32
3	生物	喜多	20	11	囲碁	藺森	25	19	卓球	高見	29
4	放送	酒井	18	12	落語	平松	16	20	男子バスケットボール	佐々木	33
5	音楽鑑賞	針谷	43	13	仕舞	池田	5	21	女子サッカー	森川	33
6	将棋	奥谷	27	14	フランス語	木沢	16	22	女子テニス	天川	27
7	晴耕	馬場	19	15	陶芸	山瀬	23	23	女子ソフトボール	松本	20
8	手芸	金岡	20	16	切り絵	川口	20	24	女子バレーボール	前川	20

従来は、4月から11月でも学校行事の関係で「学指・学活」として数回とらねばならなかったので、「クラブ活動」がかなりとびとびになっていた。それらをSHの時間にまわすことによって、「クラブ活動」の時間がほぼ毎週確保できるようになって好都合であった。

上にあげた「クラブ活動」の中には、その活動内容がSHの時間に行った自主製作、自主研究と

ほぼ変わらないものがある。「クラブ活動」とSHの活動の内容や性格についてちがいを
もたせるのか、重複があってもやむをえないとするのか、両者を総合的に行うのがよいのか、研究
の余地がある。

2 「SH」と教科との関連

新教育課程では週4時間が「ゆとりの時間」になっている。この4時間分は各教科の学習内容を
精選、削減して授業時間数を少なくしたことによって生じたものである。ここで、新教育課程の時
間数に合わせて完全実施してみた各教科の実情をのべる。

なお、本校の54年度実施した（新教育課程と同じ）一週間の授業時間数と従来の時間数は次の表
のとおりである。（ ）内は53年度の授業時間数である。

区 分	必須教科の授業時数								道徳の 授業時数	特別活動の 授業時数	選択教科等に 充てる授業時数	S Hの 授業時数	一週間の 総授業時数
	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 健 体 育	技 術・ 家 庭					
第1学年	5 (4.5)	4 (4)	3 (4)	3 (4)	2 (2)	2 (2)	3 (3.5)	2 (3)	1 (1)	2 (2)	3 (4)	4 (-)	34 (34)
第2学年	4 (4.5)	4 (5)	4 (4)	3 (4)	2 (1)	2 (2)	3 (3.5)	2 (3)	1 (1)	2 (2)	3 (4)	4 (-)	34 (34)
第3学年	4 (4.5)	3 (4)	4 (5)	4 (4)	1 (2)	1 (1)	3 (3.5)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	4 (4)	4 (-)	34 (34)

備考 ・選択教科等に充てる時数のうち、各学年とも英語に3時間（旧4時間）ずつとり、第3
学年に1時間だけ音楽、美術、保健体育、技術・家庭の中から生徒が選択したものを1
つとる。

(1)国語科

時間の減少によって学習内容が稀薄にならないようにと、教材の精選に留意した。すなわち、
教科書（学図）の11単元のうち、類似の単元を結合してその中で教材の精選をはかったり、1単
元をそっくり割愛したりして、8単元に減らして指導した。ひとつの教材に対する補助プリント
などの量も変わらず、学習の深まりにおいて問題点は残らなかった。しかし、単元構成におい
ては、文法、語句、語彙など言語の基本事項の指導と、入門期の古典指導にかける時間を減らすこ
とができないので、詩や小説などの鑑賞教材にかける時間にしわよせがくるということ、これが
今後検討すべき問題点となっている。

(2)社会科

2・3学年は授業時数を週1時間ずつ削減したため、余裕時間はほとんどなく、とくに歴史的
分野などは学年中に全教材を消化することができなかった。社会科における余裕とは何か、教科別
発表の部でふれることではあるが、移行措置の段階における留意点を学年別に略記すれば次の通
りである。

第1学年（地歴並行学習）

移行期ではあるが、新指導要領の趣旨をふまえて第1学年は地理的分野の「世界の地理」を先習し、歴史的分野は昭和55年度末までに（第2学年で）完結するように年間指導計画を作成、試行的に地歴並行（ π 型）学習を実施、単元サイクルを原則とした。

わが国との関係が深い地域または国を重点的に扱う。日本史の内容を中心とし、近代以前の世界的内容は削減する。というが、実際に学習を展開してみると、他との関連でどうしても扱わざるをえない場合が多く、学習内容の精選と重点化は容易なことではなく、地歴相互の有機的関連をはかるといっても周到な計画のもとに実施しなければならないことを痛感している。また視聴覚教材（特に学校放送番組）についても教育実習や予習課題による発表形式のグループ学習を継続した結果などから時間的制約で充分活用できなかったように思う。

第2学年（歴史的分野）

現在使用の歴史教科書に登場する人名数は333名にのぼる。これを重点的に選択することは、政治・外交・経済に関しては、ほとんど不可能で、削除・軽視するのは、いきおい文化面に集中しがらである。また、教科書に登場しない人物名も、さらに数十名を挙げて授業しているはずであって、人名一つとってみても、その数は莫大なものである。さらに、時代の背景や人物像の影響に及ぶとなると、教科書の名人は大巾に削減するか、選択する必要が生ずる。学習指導要領の示す内容の中で、さらに重点的な取り扱い・授業が考慮されるべきであろう。

第3学年（公民的分野）

過渡期でもあり、2年の歴史学習の後半の部分を12時間程度で大急ぎで終了させた。そのため憲法をはじめ、法律や政治及び国際組織などの基礎的な点の理解にとどめた。また、不足ぎみと思われる時間内で、考える力や社会を見る眼を同時に養いたいと思い、新聞を主とした報道から教材になるものを選択して使用してみた。その点はやゝ効果があったと思われたし、公民的分野は比較的伸縮が自由になり、さほど時間不足は感じられなかった。

(3)数学科

第1学年

週3時間で実施、記数法を削除、いろいろな比例関係、統計を3年へ移すことにする。集合については、はじめに簡単にでもその基本的な考え方をまとめた方が、各単元でその考え方が生かされると判断して5時間をあてた。三角形の合同についても一応まとめたかったが時間が充分とれなかった。全般的に学校での問題練習の時間を充分にとれなかった。週3時間になったときのしわよせが、案外こんなところに向けられた。

第2学年

週4時間で実施。演算、図形の変換を削除。時間数に変化はないが、もともと内容が多すぎていただけに、とくにゆとりができたという実感が無い。

第3学年

週4時間、二元不等式、線のつながりを削除。3年後半は総まとめの時間にあてる。移行期間後に1、2年から移される単元をふくめて考えると決して充分とはいえないだろう。

(4)理科

1、2学年共に1週3時間であるが移行措置を考慮した教科書「新編新しい科学」東書版を使

い、さらに下記に示すように一部省略して授業を進めてきたのであまり時間不足は感ずることはなかったが、移行措置の教科書を1週4時間で指導する場合に考えられる余裕時間はなくなった。これは「ゆとりの時間」を試行しながら教科の移行措置を実施したための過渡的現象である。問題演習、テレビ視聴、操作の習熟、作業を必要とするものに十分な時間をとれなかったが、継続観察記録などは宿題として扱ったものもある。

3学年は現行も改訂後も1週4時間で時数は変わらない。一方、教材の方は精選され、従来の教科書を使いながら内容が一部省略されたため、全体的には従来よりも時間的余裕ができた。以下54年度移行措置の実態の概略を単元別に示すと次のとおりである。また、特に内容等について配慮した点を示した。

第1学年

(1) 1分野

○物質と性質

「溶液の濃度」は削除、溶解度に関しては軽く取扱う。

「クロマトグラフィー」の項目は削除

この単元では改訂後の内容を考慮して「加熱と燃焼」「気体の発生する化学変化」等について軽く触れた。また基礎実験操作に習熟できるよう生徒実験を重視した。

○力のはたらき

従来とほとんど同じだが、水圧に関連して実験観察を通して浮力にも触れ考えさせた。重力と質量については操作的に定義し、質量が保存量であることを強調。物質の重量はその質量に比例することに触れた。

○エネルギー

この単元は改訂後、大部分3年に移行するもので、「仕事とエネルギー」削除。「光とエネルギー」のうち、「とつレンズによる像のできかた」削除。また「エネルギーのうつりかわり」削除。

「熱とエネルギー」のうち「熱量はどのようにしてきめたか」「熱の移動」以外は削除。エネルギー概念については基礎になる具体的事象についての学習を積み重ねて、エネルギー概念の素地を培ってから3年で導入し、初歩的なエネルギー概念の形成を図る。これが改訂の主旨であり概念の形成が無理なく行われるよう配慮した。

(2) 2分野

○生物の世界

教科書では「生物と細胞」は2年へ移動済み、1年で削除。

「自然とその中の生物」では学校の近辺や郷土の自然の中から具体的な教材を求め生徒の身近に焦点をおき、生物不在の生物学にならないように配慮したが、生徒の直接経験によることの困難なものは視聴覚教材、郷土の自然から取材した自作スライド等これらを活用し、生物は常に環境と密接に関連して生活していることに気付かせるようにした。

○宇宙の中の地球

「地球、月、太陽の計測」にかゝる項目は削除。

銀河系外宇宙に関する内容は具体的な資料が少なく軽く取扱う。

「太陽系の構成」については惑星への無人ロケット調査による最新情報等取扱った放送教材を活用しそれぞれの特徴を具体的に把握できるよう配慮した。

第2学年

(1) 1分野

◦物質と原子分子

従来から本校で作成利用している「ワークシート」を改訂して使った。

「定比例の法則」「単分子膜の測定」「炎色反応」「スペクトル」は削除
状態変化と熱については軽くふれた

◦電流

従来とほとんど変化なし 「ワークシート」による指導

「二極管のはたらき」は削除

(2) 2分野

◦生物のからだと細胞のはたらき

「細胞分裂像」を得る生徒実験削除 くわしい遺伝のしくみは削除

◦生きている生物の活動

いろいろな動物の消化器削除

光合成については軽くふれ生徒実験は削除 これは3学年で生物どうしのつながりのところで生産者としての植物のはたらきとして取扱う。

◦空気の動きと天気の変化

気象通報を聞いて天気図を作成する実習は削除。かわりに1週間程度の連続した新聞天気図を用い天気の移り変わりを考察させ、天気の変化を空間的な広がりや時間的推移の中でとらえられるよう配慮した。

第3学年

(1) 1分野

◦物理と電気

イオン化傾向の大小の金属を組み合わせて電池が作れることは削除。

イオンの結びつきによって沈澱ができる反応をイオンのモデルで説明できること、及び未知水溶液中のイオンの検出については削除。

◦電流と磁界

ほとんど変化なし

◦運動とエネルギー

本校でここ数年作成利用している「ワークシート」を全面的に改訂して使用した。運動の第2法則については省略することも考えてみたが、時間的余裕があったのでワークシート(参考)として軽く触れた。

万有引力の法則や運動エネルギーを数式でまとめるような高度な扱いはしないよう配慮した。

(2) 2分野

◦生物の反応

ほとんど変化なし。

◦自然の中の生物

(i)環境と生物のはたらき合い

生物集団は周囲の環境からいろいろな影響をうけて生活していると同時に生物集団も周囲の環境を変化させていることを、多くの資料(図表・放送・教材)や実際の観察を通して

とらえさせた。時間的に余裕もあったので「土の中の生物」を教材にとり入れ森林や土の中に意外にもいろいろな生物がいることを観察させ、どうしてこうした生物が生活していくことが可能なのか。またこうした生物が生活していくことによって土壌という環境が今後どのように変化していくかを考えさせ後の「自然界のつりあい」に関連する「分解者」の動きの重要性を強調しておいた。

(ii)生物どうしのはたらき合い

従来、扱いの軽かった分解者を重視し、「生産者」「消費者」「分解者」の3者を主役として扱い、お互いのつながりの中で、つりあいを保ちながら生活していることをとらえさせ、人間も生物界の一員として、生物の世界のつりあいはなれて生きていくことができないことに重点をおいた。また、人間によって自然界のつりあいがくずされることをあることを実例をあげて説明し、環境破壊、公害問題、自然保護などにも触れ、後の単元の「自然と人間の生活」の内容へ発展させて、ここで扱ったまとめとして、16ミリ映画「自然界のつながり」「自然のつながりと保護」を利用した。

○大地の変化

改訂後は従来2学年で学習していた「流水の作用と地層のできかた」の単元がここで扱われるのであるが、この学年は前年に学習しているので今年度は従来通り「火山活動」「火成岩」「地震」「地殻の変動」「地表の歴史」の小単元を学習した。またこの単元でも視聴覚教材を活用したが、特に16ミリ映画では「アイスランドに地球の鼓動を聞く」「地震予知への道」「美しい国土」などは大変役に立ったと思う。

(5)保健体育科

56年度からの新指導要領では、各分野にあてる授業時数は3年間を通じて体育分野260単位時間、保健分野55単位時間を標準とすることになった。現行に比べて体育分野で各学年20単位時間、保健分野で15時間減少した。

内容に関しては、各領域別の授業時数の配当が新指導要領では示されていない。したがって、各学校の実態にあわせて各領域別の授業時数を割り当てることになった。本校においては、保健分野は非常勤講師の指導であること、プールとグラウンドが小学校との共同使用という実態をふまえて、右の表に示す時間配当で年間計画をたてて指導を行なった。

○保健分野

保健に関しては第3学年にある程

領 域		男 子			女 子		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年
体 操		10	7	9	10	7	11
個 人 的	陸 上	12	10	12	14	10	15
	器 械	12	12	14	12	10	15
	水 泳	3	3	3	2	2	3
集 団 的 ス ポ ー ツ	バスケットボール	16	11	16	16	14	16
	バレーボール	12	10	14	12	12	14
	サ ッ カ ー	10	0	10	0	0	0
	ハンドボール	0	0	0	12	0	0
格 技		15	13	15	0	0	0
ダ ン ス		0	0	0	12	12	18
知 識		5	4	2	5	3	3
体育分野の合計時数		95	70	95	95	70	95
保 健		10	35	10	10	35	10
総 計		105	105	105	105	105	105

度まとまった時数を取るように示されているが、3年生は1学期の後半から対外試合がなくなり必然的に部活動をやめるため運動不足になりがちである。また、保健は3年でなくては理解できぬ内容でなく、2年でも十分に理解できる内容であるという見地から、2年でまとまった時数をあててみた。

○体育分野

減った各学年20時間の時数は、本校の実態として、グラウンド、プールが小学校との共同使用であるため、十分な指導が出来ない水泳とサッカーの時数を特に減らした。各領域の中で減った分は教材を精選して指導した。

- ・体 操 基礎体力の向上と忍耐力の育成を旨とし各学年共トレーニング（主にサーキット的に取り扱う）と持久走に重点を置いて指導した。
- ・陸上競技 1年は短距離、リレーと長距離走、2年は障害走と長距離走、3年は障害走と高とび、長距離走に重点を置いた指導を行なった。
- ・器 械 各学年共に技の組合せを工夫した。マット運動の指導に重点を置いた。
- ・集 団 的
ス ポー ツ サッカーはグラウンド全面使用が困難であるのでサッカーの時数を減らしバスケットボールとバレーボールに重点を置いて指導した。ハンドボールに関しては女子の1年生で校内大会と関連させて取り扱った。
- ・格 技 マットと畳を敷いて即席の道場を作った指導しか出来ないのので、立技は危険を伴うので各学年共に固め技の指導に重点を置いて指導した。
- ・ダ ン ス 創作ダンスに重点をおいて指導した。フォークダンスの方は運動会時に取り扱った。

(6)技術家庭科

昨年度（昭和54年度）から本校では、新学習指導要領に沿って実施することになり、技術・家庭科でも1・2年生は週当たり2時間、3年生は3時間で年間計画を立案した。まず、男子9領域女子8領域のうち、どの領域をいくつ選択するかが問題になる。できるだけ多くの領域を選べば、生徒達に幅広く多くの知識や技術を教授できそうに思われる。しかし限られた時間内で新幹線授業を行なえば、消化不良を起こしかえって教科の目標からかけ離れた結果になると思われる。授業の中にゆとりがあり、しかも生徒の創造性や思考力を伸ばしたものにするためにはできる限り領域をへらし、しかも生徒の製作実習意欲を盛り立てる題材を選定することである。

下の表は、昨年度本校で実践した年間計画である。研究不足の状態のまま実施したため、男

男子コース

	1 学期	2 学期	3 学期
第 1 学年	木材加工(1) [35]	金属加工(1) [35]	
第 2 学年	木材加工 (2) [30]	機械 (1) [20]	電気 (1) [20]
第 3 学年	機械(2) [40]	電気(2) [40]	金属加工(2) [25]

[]内数字は配当時間数

女子コース

	1 学期	2 学期	3 学期
第 1 学年	被服(1) [35]	食物(1) [35]	
第 2 学年	被服(2) [35]	あみもの被服(3) [15]	食物 (2) [20]
第 3 学年	被服 (3) [35]	食物 (3) [40]	家庭電気 [30]

[]内数字は配当時間数

女相互乗入れができなかった。また体育科との組み合わせの関係で1・2年生共連続授業（2時間続き）ができず、製作実習など予定より多くの時間がかかり、途中で一部修正せざるを得なかった。又食物領域の調理実習の時間作りに苦心した。

(7)英語科

週3時間の授業では4時間の場合との1時間の差が授業内容の広さ、深さにあらわれることは当然であり、到達目標も低くしなければならない。この現実を無視して従来通りに生徒の学力をつけることを期待してその分を宿題等家庭の学習で補うことを前提とすることは「ゆとり」の精神に反する。しかし、語学のように反復練習、継続を必要条件とする教科では年間授業時間数が少ないことは非常に不利な条件である。問題は如何にしてすこしでも無駄を省き能率よく授業を行うかである。時間不足はよく利用されてきた「oral method」や「direct method」の実施を非常に困難なものとし、又、「言語活動」を行う余裕をすくなくする結果となる。そこで各学年で或程度重点目標をきめ、例えば、低学年では音声面の指導を重視し、高学年では読解を中心に授業を行って、高校進学に備えるというような対策を検討することが必要となる。

(8)3年選択（音楽、美術、保健体育、技術・家庭）

新教育課程では選択教科の時間は1学年、2学年は各3時間で3学年は4時間である。本校では各学年3時間は英語、3学年ではさらに1時間の選択がある。3学年は音楽、美術、保健体育、技術・家庭の中から1つを選択する。

その具体的な方法は次のようにした。

- (i) 各選択教科の生徒数については、各指導者の希望をとり、全体的に調整する。音楽は男女比を考慮する。体育はグループ構成を考慮し生徒数をきめる。
- (ii) 各選択教科の年間学習内容と趣旨について生徒に説明し、選ぶ資料とする。
- (iii) 成績通知表及び学習指導要録などの評価は、文部省からの指示があるまで行わない。

以下各選択教科で行なった内容とその反省点などをのべる。

選 択 教 科

教科	指導者	性別	生徒数	合計
音楽	針 谷	男	10	34
		女	24	
美術	米 澤	男	18	32
		女	14	
体育	前 川 佐々木	男	30	30
		女	24	24
技術	森 田	男	33	33
家庭	沢 村	女	20	20
合 計		男	91	173
		女	82	

①音 楽

「混声合唱を楽しもう」というねらいでスタートした。希望調査により女子20名、男子10名の構成による混声三部合唱を考えた。女子20名はほとんど第1希望の生徒であったが、男子10名のうち7名までが第2、第3希望の生徒であった。生徒の中から指揮者2名、伴奏者4名を選ばせ、授業はできるだけ生徒の自主的活動、運営で進めることをねらった。しかし選曲をまかされたことなど、教師の指導の場面が多くなりすぎたようであった。それに第1希望でなかった男子生徒があまり乗り気でなく、どうせ成績評価もつかないんだからと、やる気のない態度さえ見せるようで、全体としては今一つ盛り上りに欠ける状態が続いた。それでも、11月の文化祭にこの選択の時間でやっている合唱を舞台発表することが決まってからはようやく、まとまりを見せ、歌声にも張りを感じられるようになった。

最後の時間に行ったこの時間（選択音楽の時間）の反省会での生徒の発言の中にあったことを2、3あげてみると、「もっと自分達の好きなフォークを歌いたかった。」「1つの曲を何時間も歌うより

楽しい曲を多く、「レコード鑑賞をしたかった」、「ギターなどを弾いて伴奏にしたかった」、「もっとむずかしく内容のある曲を」などその希望するところ、期待するものがばらばらであったし、言うことと実際の時間での真剣な取り組みとが、かなり違っていたりで、全体をしっかりとつかみきれしていない教師の責任も反省されている。「ゆとり」ある学習、生徒の興味ある活動、個性の伸長をねがっての選択の時間も、1週1時間の、しかも教科の時間とは異なった内容をねらっての運営には、いろいろ問題が多いようだ。(練習した曲 「山のいぶき」「汽車にのって」ほか7曲)

②美術

・実施の内容

1学期 マーブリングを生かしたデザイン

(1) 現代テクニックの一つであるマーブリングを体験させる。

(2) 自作のマーブリングをもとにして、ブックカバー、またはレコードジャケットのデザインをする。

2学期 ミツマタによる立体構成

華道で使われる脱色したミツマタを素材にして、立体構成をする。

テーマ 自由

モビールをはじめ、家の模型、卓上に置く立体構成などいろいろなものができた。

3学期 私のシンボルマーク

古くから日本に家紋があるように、自分自身のシンボルマークをデザインする。

・反省

平生の授業ではできないものをとということがあげられているが、週1時限の実技ではどうしても平生の授業の延長の感が免れない。選択美術の性格づくりが確立されないままスタートしたために、生徒の表現意欲を充分掻き立てる余裕を持てなかった。文化祭で成果を発表する機会を与えられたことは何よりで、この種の選択はやはりコミュニケーションの場があって初めて成立するのであるから、文化祭の展示発表を目標に指導して行きたい。

③保健体育

地域中学校の実態、生徒の関心等を考慮して、適切な内容を選ぶことになっている。本校では必須教科で行わない種目から男子はテニスと卓球を、女子はテニス、ソフトボール、バドミントンを、必須教科領域から男子はサッカー、バスケットボールを、女子はバスケットボールを行なった。

反省

(1) テニス、卓球、バドミントンは人数に対して、施設、設備が充分でないためコートに入ってから練習回数が少なく、技能は当初めざしていた水準にまで到達することはできなかった。

(2) 生徒は選択教科というのはレクレーションの時間という気分で授業にのぞみ、成績評価もないので必修教科より軽視する傾向が見られた。

④技術

3年生に週1時間配当される選択技術では、1・2年生の技術科で学習した事項の応用となる教材を考える。前半は木材加工の応用として、「はしご兼キャタツの製作」と「座椅子の製作」を題材に選び、いずれかを生徒の希望で製作する。製図及び作業行程など、木材加工学習の経験から自主的に立案し製作に取り組む。接合部の止めほぞを通しほぞにしたり、キャタツの止め金を鎖に変

更したり一部修正はあったものの全員完成し、秋の文化祭には展示発表ができた。

後半は、電気領域の低周波増幅器か4石トランジスタラジオの製作を考えていたが、美術科の教官より学校の美術の時間に使用する絵画パネル板を一学年分（180枚）製作してほしいとの要望がある。生徒達の賛同も得られたので、急きょ予定を変え「絵画パネル板の製作」に取り組む。180枚を班分担とし、各班内でワク作りや板作りなど作業を分担して製作する。完成品のうらに製作者の氏名を記入させる。生徒達もよい卒業記念ができたと喜こんでいた。

これからも可能なかぎり、学校の備品などの製作をした方が、この選択教科の目的が活かされるように思われる。

⑤ 家庭

選択の意図を解することもなく、それゆえに指導目標、内容のイメージがわからない教師と、やはりイメージがわからないであろう生徒で54年度に実施した。

1学期 刺しこによるふきん

洋菓子づくり（グループ別）

2学期 刺しゅうによる作品

草染めの小物

3学期 キッチン手袋（型紙づくり→縫製）

・反省

- (1)一斉授業の中ではとりあげられない教材がとりあげられ、ある程度生徒の興味関心のある内容のものができる。
- (2)週に1時間では実習時間としては短く、分断可能な実習しかできない。
- (3)学校生活に必要な用具などを自分達の力で作り、活用するという実践的な姿勢を身につける点で刺しこによるふきん（実用性の中に幾可学的美がある） キッチン手袋（オープンもち手）などはよかったと思う。
- (4)2学期の刺しゅうは文化祭前に生徒が意欲的にとりくんだ。評価が記録ではなく、全校生徒から生の評価が得られることはよく、こういう機会はぜひつくってやりたい。

以上のように、3学年の英語以外の選択教科（音楽、美術、保健体育、技術・家庭）の性格は、「クラブ活動」やSHの活動と大きなちがいが見られない。また評価がないという点もこれらの活動と同じである。名称がちがうが内容や性格の同じものが同居していて、生徒も教師の方でも困惑しているのが実情といえよう。今後、おおいに研究を要するものと思われる。

VI おわりに

試行1年目を反省して、よかったと思われることや次年度への課題として考えねばならないことのいくつかをあげる。

- (1) 学校や生徒会の行事・活動の時間を従来に比して多くとることができ、活動の充実をはかることができた。
- (2) 自主製作、自主研究、読書等の自主的な活動の時間数は年間を通してみれば、ほぼ適当であったと思う。
- (3) SH、クラブ活動、3年選択教科の活動内容で全く同じことが行なわれるものもある。3つの教育活動の関係を明らかにし、活動内容の整理をする必要がある。
- (4) SHの時間を週時間割にどう位置づけるかは活動内容と関連して、さらに研究を必要とする。
- (5) SHの時間の指導は全教官が担当するが学級担任の負担がどうしても多くなる。
- (6) 活動内容、計画が過密になると、かえって、ゆとりある活動が失われるおそれもある。
- (7) 生徒の希望に「休み時間を長くしてほしい」「学級でのスポーツやゲーム等をしたい」ということがあげられている。一考を要することである。

「ゆとりの時間の運営」についての実践報告は以上の通りである。この実践を通して得たことを活かし、さらに改善し、「ゆとりあるしかも充実した教育」の実践を追究したいと思う。

資料 (1) の1

生徒対象「ゆとりの時間」についてのアンケート結果

昭和54年7月中旬実施

ゆとりの時間についてのアンケート

「ゆとりのあるしかも充実した学校生活を行う」ということを目標にして、学校生活時間（中休み15分間、昼食後休み40分間、SHの時間）学校諸行事と活動（合唱コンクール、写生大会、球技大会部活動等および練習、避難訓練、大掃除、体重測定、学級役員係選出等、自由研究、ジョギング等）について、4月より実施してきました。

ここで、1学期を反省して改善したいこと、新しくとり入れたいことの調査をして、さらに、よい学校生活をつくりたいと思います。

① 学校生活時間について

I 中休み（2限後の休み）は現在15分間である。下の(1)～(3)の中で希望するもの1つを選び

() 内に○印をかきなさい。

() (1) 中休みは15分間がよい。

() (2) 中休みは10分間がよい。

() (3) 中休みは15分間より長い方がよい。

II 現在昼食時間は20分間で昼食後の休みは40分間である。下の(1)～(3)の中で希望するもの1つを選び() 内に○印をかきなさい。

() (1) 昼食後の休みは40分間がよい。

() (2) 昼食後の休みは40分間より短い方がよい。

() (3) 昼食後の休みは40分間より長い方がよい。

上の(2)、(3)に○印をつけた人は昼食後の休み時間は何分間がよいか希望する時間を下の() 内にかきなさい。() 分間

III SHの時間に自主学習、自主研究、ジョギングを実施しましたがその時間について、下の(1)～(3)より1つを選び() 内に○印をかきなさい。

() (1) SHの時間は30分間がよい。

() (2) SHの時間は30分間より短い方がよい。

() (3) SHの時間は30分間より長い方がよい。

上の(2)、(3)に○印をつけた人はSHの時間は何分間がよいか希望する時間を下の() 内にかきなさい。() 分間

IV 現在掃除を昼休み後に行なっている。下の(1)、(2)の中で希望するもの1つを選び() 内に○印をかきなさい。

() (1) 現在通りでよい。

() (2) 1日の授業が終わってから全員いっせいで掃除をしてホームルームをする方がよい。

V 学校生活時間（週番朝礼8時20分より下校時刻5時30分まで）について希望することがありましたら、下の() 内にかきなさい。

()

② 学校諸行事、S H 活動内容について

1 学期 S H の時間には学校全体の活動として、例えば、合唱コンクール、球技大会、部活動の練習、写生大会後の作品選定、学級役員係の選出、避難訓練、大掃除、体重測定等を行い、学年や学級の活動として、自主学習、ジョギング、自主研究、読書等を行いました。

I 学年や学級での活動内容について、次の()内にかきなさい。

- (1) よかったこと ()
- (2) よくなかったこと()
- (3) 希望すること ()

II 学校全体の活動内容について希望することを次の()内にかきなさい。

()

第 学年 組 番 _____

① 学校生活時間について

(I) 中休みについて

	1 年	2 年	3 年	計
(1) 15 分間がよい	66%(114名)	72%(128名)	70%(121名)	70%
(2) 10 分間がよい	9%(16名)	13%(24名)	21%(36名)	14%
(3) 15 分間より長い方がよい	25%(42名)	15%(26名)	9%(15名)	16%

(II) 昼食後の休みについて

	1 年	2 年	3 年	計
(1) 40 分間がよい	63%(109名)	60%(104名)	60%(102名)	60%
(2) 40 分間より短い方がよい	7%(12名)	12%(21名)	20%(35名)	13%
(3) 40 分間より長い方がよい	30%(51名)	28%(53名)	20%(35名)	27%

(Ⅲ) SHの時間の長さについて

	1 年	2 年	3 年	計
(1) 30分間がよい	52%(89名)	60%(105名)	41%(70名)	51 %
(2) 30分間より短い方がよい	15%(26名)	23%(41名)	14%(24名)	17 %
(3) 30分間より長い方がよい	33%(57名)	17%(32名)	45%(78名)	32 %

(Ⅳ) 掃除の時間について

	1 年	2 年	3 年	計
(1) 昼食後の現行がよい	84%(144名)	77%(137名)	71%(122名)	77 %
(2) 授業終了後がよい	16%(27名)	23%(38名)	19%(49名)	23 %

資料 (1) の 2

生徒対象「ゆとりの時間」についてのアンケート結果

昭和 54 年 12 月末実施

ゆとりの時間についてのアンケート

() 年 () 組 ()

「ゆとりのあるしかも充実した学校生活を行う」ということを目標にして4月から新しい試みがなされてきました。

2学期には、1学期末の反省の上になつて、新たに学校生活時間やSHの時間を組み実施してきました。

ここで、2学期を反省し、さらによい学校生活をつくりあげる資料にしたいと思います。

次に1学期および2学期の日課表をあげてありますが、斜線の部分は、1学期と2学期で変わったところです。

日課表を参考にして、いままでの学校生活をふり返り以下のアンケートに教えてください。

日 課 表

(1 学 期)

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
15分						
3						
4						
40分	昼食					掃除
昼休						
掃除						
5				ク		
30分	6	SH	SH	SH	プ	SH

(2 学 期)

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
10分						
3						
4						SH 掃除
40分	昼食					
昼休						
掃除						
5				ク		
50分	6		SH	プ	SH	

- (1) 休み時間が長いとよく遊べる、楽しいゆっくりできる。
- (2) 時間が長くてもあまりすることがない。
- (3) 3年では中休み10分、昼休み30分という意見が15名あった。

(II) SHの時間について

	1年	2年	3年	計
(1) 1学期がよい	26%(44名)	38%(67名)	15%(25名)	(26%)
(2) 2学期がよい	67%(112名)	55%(97名)	77%(132名)	(66%)
(3) その他	7%(13名)	7%(13名)	8%(15名)	(8%)

- (1) 回数が多い方がよい。授業は5時間で毎日息抜きの時間があるとよい。土曜日の80分は長すぎる。
- (2) まとまったことができる。作業がしやすい。内容が充実する。
- (3) 内容によるのでどちらともいえない。

(III) 学校生活時間について

目立った意見はなかったが

- ・部活動の時間を長くしてほしい
- ・下校時刻を遅くしてほしい
- ・冬時間を作って欲しい(53年度までは、11月～3月を冬時間とし、始業を10分遅らせ、45分授業にしていた。54年度からは、教科の時間数も減ったため、授業内容を充実させるために通年50分授業をしていた。)

② 学校諸行事、SHの活動内容について

(I) 学校全体の活動内容について

	1年	2年	3年	計
運動会の種目説明準備	32	36	24	92名
文化祭の準備練習	108	92	114	312
部活動の練習	60	100	40	200
自主学習	60	48	76	184
生徒会公聴会	32	20	24	76
大掃除	20	8	16	44
体重測定	28	8	8	44

(II) 学年や学級での活動内容について

- 1年 ・ポスター製作(明るい選挙) 20名
- ・1泊旅行オリエンテーション 88名
- ・自主製作 96名
- 2年 ・ジョギング 64名
- ・修学旅行予備学習 60名
- ・ポスター製作(世界連邦) 28名
- ・読書 56名
- 3年 ・自主研究 56名
- ・観能 48名
- ・城下町見て歩きオリエンテーション 64名

(III) 希望や意見

- ・学校外へ出てよいことにすればよい
- ・野外活動をしたい
- ・もっとクラス単位の活動をしたらい
- ・土曜日にまとめてやるようにしたらよい
- ・発表会など具体的な目標をもってやっ
- ・もう少し自主研究の時間を多くほしかった

- たらよい
- ・もっと自主製作の時間があればよい
- ・レクリエーション的なものを入れて欲しい
- ・たてのつながり（1A、2A、3A）でまとまった事をしてみたい
- ・スポーツをやりたい（体育館、運動場で）
- ・自主研究の内容にある程度規定をつくれればよい
- ・3分間スピーチのような話す事もよい
- ・もっといろいろなことをしてみたい
- ・テスト前の自主学習は不要
- ・クラス内の話しあいもとり入れたらよい

資料（2）の2 教師対象のアンケートの結果

SHの時間について1年間を振り返って、いくつかの項目について意見や希望などがあつたら、自由にかいてもらう形式でアンケート調査をした結果は以下のとおりであった。

① 学校生活について

(1) 中休み（2限後の休み）時間について（第1次試行15分間、第2次試行10分間）「10分の方がはっきりしていてよい」という意見が大方で、他は次のとおりであった。

- ・15分の方がよい。（2名）
- ・時間がとれれば15分あればよい。（1名）

(2) 昼食時間、昼食後の休み時間について

（昼食時間は20分間、昼食後の休み時間は第1次試行40分間、第2次試行25分間）「40分では長すぎる」という意見が大方で、他は次のとおりであった。

- ・時間がとれれば長い方がよい。（2名）
- ・20分よりまだ短かくてもよい。（1名）
- ・昼食時間、昼休み時間の会議や委員会は好ましくない。（3名）

(3) SHの時間、回数について

「現行（第2次試行）の時間、回数でよい。」という意見が比較的多かった。他は次のとおりであった。

- ・回数は適当だが、50分は長すぎる。（1名）
- ・2時間ずつにまとめて、週2回にすればよい。（3名）
- ・長期計画がないと時間をもてあますことがある。（2名）
- ・土曜日は終礼終了を12:00とすべきだ。（2名）
- ・教科外活動が週の後半に集中するのは好ましくない。（1名）
- ・クラブの時間と合わせて、融会的な運営ができないだろうか。（2名）

(4) 掃除の時間について（5限開始前20分間）

「現行で良い。」という意見が大方で、他は次のとおりであった。

- ・掃除の時間は15分でよい。（2名）
- ・掃除は授業後にした方がよい。（2名）
- ・月曜日の朝に短時間でもよいから掃除をすればよい。（1名）
- ・土曜日は終礼後の方がよい。（2名）
- ・全員掃除は時間があまって無理である。（2名）

(5) 学校生活時間について

(週番朝礼 8 時20分、50分授業、終礼終了15時40分、下校時刻17時30分)「現行で 』
という意見が大方で、他は次のとおりであった。

- ・ 17時30分の下校は遅い。(2 名)
- ・ 下校時刻を17時にすればよい。(3 名)
- ・ 始業を10分間早くすればよい。(1 名)

② 学校諸行事、S Hの活動内容について

(1) 学校全体の活動について

- ・ 1つのテーマで学校全体がS Hの時間を活用したらよい。
- ・ 生徒全員が参加できる行事、例えば、フォークダンス、社会見学、スピーチコンテスト、カルタ大会、討論会、講演会、映画鑑賞会、芸能(演劇・能・狂言・舞)鑑賞会などを増やす。(4 名)
- ・ 教師の指導が常にどこかになければならないと思う。
- ・ 学指学活とクラブの時間も考慮に入れてバランスをとるようにすればよい。
- ・ 今年度の実践したことをさらに徹底、定着するようにすればよい。

(2) 学年や学級での活動について

- ・ 団体行事の練習、連帯感の育成などにもっと使うべきだと思う。
- ・ 学年単位の発表会や表現会があってもよい。
- ・ 学年、学級の特徴、生徒の意見を尊重してやりたい。
- ・ 学年相互の連係、相談があっても良いと思う。
- ・ 自主研究はきわめてまじめな内容のものが多いだけに、十分に時間をとってやりたい。
- ・ 自主研究のテーマが少し固すぎたようだ。
- ・ 内容を欲ばらずに徹底すべきだ。

(3) 担当者について

- ・ ホーム担任が過重になりすぎる。
- ・ 学級単位のものをなるべく少なくして、学年単位のものを多くする。
- ・ 時間割で担当者を固定してほしい。
- ・ 学級のわくをはずして、自由な活動形態にすればよい。
- ・ ホーム担任の負担過重は、ある程度仕方のないことではないか。

③ その他全般にわたって

- ・ S Hのあり方について根本から考え直してほしい。ゆとりがゆとりでなくなっている。
- ・ 各教科の中で時間的な余裕、充実をはかった方が実があるのではないか。
- ・ 以前にくらべて教師も生徒も学校生活にゆとりがなくなった。
- ・ 教員の週1回の研修日を実施試行すべきだ。(2 名)
- ・ S Hと部活動、クラブ活動、学指学活、3年選択などを融合的に統合できないか。(3 名)
- ・ S Hで学校以外でやればよいことまで、させなければならないか。

日曜	行 事	日曜	1 年 S・H	日曜	2 年 S・H	日曜	3 年 S・H
1 日		1 日		1 日		1 日	
2 月		2 月		2 月		2 月	
3 火		3 火		3 火		3 火	
4 水		4 水		4 水		4 水	
5 木		5 木		5 木		5 木	
6 金	時間割編成	6 金		6 金		6 金	
7 土	教官会議	7 土		7 土		7 土	
8 日		8 日		8 日		8 日	
9 月	始業式、入学式、SH趣旨説明	9 月		9 月		9 月	
10 火	教官会議	10 火	学級写真撮影	10 火	学級役員の選出	10 火	同 左
11 水		11 水	学級役員の選出	11 水	学級係の選出	11 水	兼六園散歩
12 木	教官研修	12 木	(教官研修のためなし)	12 木	(同 左)	12 木	(同 左)
13 金	教官研修、常任委員会	13 金	(同 上)	13 金	(同 左)	13 金	(同 左)
14 土		14 土		14 土		14 土	
15 日		15 日		15 日		15 日	
16 月		16 月	記名検査	16 月	同 左	16 月	同 左
17 火	教官会議、内科検診	17 火	生徒会各委員の選出 学級係選出	17 火	同 左	17 火	自主研究のテーマ決定
18 水	耳鼻咽喉科検診	18 水	生徒会各委員会	18 水	同 左	18 水	同 左
19 木	歯科検診、クラブ(説明 調査)	19 木		19 木		19 木	
20 金	遠足	20 金		20 金		20 金	
21 土		21 土		21 土		21 土	
22 日		22 日		22 日		22 日	
23 月	避難訓練	23 月	避難訓練	23 月	同 左	23 月	同 左
24 火	教官会議、内科検診	24 火	基本的な生活態度	24 火	同 左	24 火	自主研究
25 水	ツベルクリン接種	25 水	生徒議会公聴会	25 水	同 左	25 水	同 左
26 木	歯科検診 クラブ	26 木		26 木		26 木	
27 金	育友会総会、常任委員会、ツ反判定	27 金	(育友会総会のためなし)	27 金	(同 左)	27 金	(同 左)
28 土		28 土		28 土		28 土	
29 日	天皇誕生日	29 日		29 日		29 日	
30 月	代休	30 月		30 月		30 月	
備考		備考		備考		備考	

昭和54年度5月

行事、S・H一覧表

金大付属中学校

日曜	行 事	日曜	1 年 S・H	日曜	2 年 S・H	日曜	3 年 S・H
1 火	教官会議、X線撮影、視力聴力検査	1 火	視力、聴力、色覚検査	1 火		1 火	
2 水	大掃除	2 水	大掃除	2 水	同 左	2 水	同 左
3 木	憲法記念日	3 木		3 木		3 木	
4 金	体力記録会	4 金	(体力記録会のためなし)	4 金	(同 左)	4 金	(同 左)
5 土	子供の日	5 土		5 土		5 土	
6 日		6 日		6 日		6 日	
7 月	体重測定(1年)	7 月	体重測定	7 月	ジョギング	7 月	自主研究
8 火	教官会議、眼科検診、体重測定(2年)	8 火		8 火	体重測定	8 火	
9 水	教生授業参観、体重測定(3年)	9 水	団体行動の練習	9 水	写生会準備	9 水	体重測定
10 木	クラブ	10 木		10 木		10 木	
11 金	写生会	11 金	(写生会のためなし)	11 金	(同 左)	11 金	(同 左)
12 土		12 土		12 土		12 土	
13 日		13 日		13 日		13 日	
14 月		14 月	写生会入選作品の選定	14 月	同 左	14 月	同 左
15 火	教官会議	15 火		15 火		15 火	
16 水		16 水	自主学习	16 水	ジョギング	16 水	自主研究
17 木	午後準備	17 木		17 木		17 木	
18 金	教育研究発表会、教生参観	18 金	(教育研究発表会のためなし)	18 金	(同 左)	18 金	(同 左)
19 土		19 土		19 土		19 土	
20 日		20 日		20 日		20 日	
21 月	教育実習開始 中間テスト	21 月	(中間テストのためなし)	21 月	(同 左)	21 月	(同 左)
22 火	教官会議	22 火		22 火		22 火	
23 水		23 水	昨年度校内合唱コンクールテレビ視聴	23 水	合唱練習	23 水	同 左
24 木	クラブ	24 木		24 木		24 木	
25 金	常任委員会	25 金	学級会、合唱コンクール自由曲の選定	25 金	合唱練習	25 金	同 左
26 土		26 土		26 土		26 土	
27 日	中体連春季大会	27 日		27 日		27 日	
28 月		28 月	合唱練習	28 月	同 左	28 月	同 左
29 火	教官会議	29 火		29 火		29 火	
30 水		30 水	合唱練習	30 水	同 左	30 水	同 左
31 木	開学記念日	31 木		31 木		31 木	
備考		備考		備考		備考	

日曜	行 事	日曜	1 年 S・H	日曜	2 年 S・H	日曜	3 年 S・H
1 金		1 金	合唱練習	1 金	同 左	1 金	同 左
2 土		2 土		2 土		2 土	
3 日	中体連春季大会	3 日		3 日		3 日	
4 月	教育実習開始(中等科3年6/16迄)	4 月	合唱練習	4 月	同 左	4 月	同 左
5 火	教官会議	5 火		5 火		5 火	
6 水	日本脳炎予防接種	6 水	合唱練習	6 水	同 左	6 水	同 左
7 木	合唱コンクール	7 木		7 木		7 木	
8 金	常任委員会、体重測定(3年)	8 金	学年集会(学校生活について)	8 金	ジョギング	8 金	体重測定
9 土		9 土		9 土		9 土	
10 日		10 日		10 日		10 日	
11 月	総合テスト(3年)、体重測定(2年)	11 月	合唱コンクール VTR 視聴	11 月	体重測定	11 月	(総合テストのためなし)
12 火	教官会議	12 火		12 火		12 火	
13 水	体重測定(1年)	13 水	体重測定	13 水	合唱コンクールVTR 視聴	13 水	部の練習
14 木	クラブ	14 木		14 木		14 木	
15 金		15 金	部の練習	15 金	同 左	15 金	同 左
16 土		16 土		16 土		16 土	
17 日		17 日		17 日		17 日	
18 月	教育実習(初等科4年6/30まで)	18 月	部の練習	18 月	同 左	18 月	同 左
19 火	教官会議	19 火		19 火		19 火	
20 水		20 水	部の練習	20 水	同 左	20 水	同 左
21 木	クラブ	21 木		21 木		21 木	
22 金	県体予選会	22 金	(県体予選会のためなし)	22 金	(同 左)	22 金	(同 左)
23 土		23 土		23 土		23 土	
24 日		24 日		24 日		24 日	
25 月	大掃除	25 月	大掃除	25 月	同 左	25 月	同 左
26 火	教官会議	26 火		26 火		26 火	
27 水		27 水	自主学习	27 水	同 左	27 水	同 左
28 木	クラブ	28 木		28 木		28 木	
29 金		29 金	全校集会(学校生活について)	29 金	同 左	29 金	同 左
30 土	教育実習終了	30 土		30 土		30 土	
備考		備考		備考		備考	

昭和54年度7月

行事、S・H一覧表

金大付属中学校

日曜	行 事	日曜	1 年 S・H	日曜	2 年 S・H	日曜	3 年 S・H
1 日		1 日		1 日		1 日	
2 月		2 月	自主学习	2 月	同 左	2 月	同 左
3 火	教官会議	3 火		3 火		3 火	
4 水		4 水	自主学习	4 水	同 左	4 水	同 左
5 木	期末テスト	5 木		5 木		5 木	
6 金	3年進学説明会	6 金	(期末テストのためなし)	6 金	(同 左)	6 金	(同 左)
7 土		7 土		7 土		7 土	
8 日		8 日		8 日		8 日	
9 月		9 月	校内球技大会の練習	9 月	同 左	9 月	同 左
10 火	教官会議	10 火		10 火		10 火	
11 水		11 水	校内球技大会の練習	11 水	同 左	11 水	同 左
12 木	映画鑑賞	12 木		12 木		12 木	
13 金	常任委員会 球技大会(午後)	13 金	球技大会	13 金	同 左	13 金	同 左
14 土		14 土		14 土		14 土	
15 日	成績伝票提出	15 日		15 日		15 日	
16 月	↓2年音楽鑑賞 体重測定(1年)	16 月	球技大会	16 月	同 左	16 月	同 左
17 火	教官会議 (2年)	17 火		17 火		17 火	
18 水	(3年)	18 水	学年集会(休暇中の心得について)	18 水	教官との親睦球技会	18 水	体重測定
19 木	クラブ	19 木		19 木		19 木	
20 金	終業式	20 金		20 金		20 金	
21 土		21 土		21 土		21 土	
22 日		22 日		22 日		22 日	
23 月		23 月		23 月		23 月	
24 火		24 火		24 火		24 火	
25 水		25 水		25 水		25 水	
26 木		26 木		26 木		26 木	
27 金	県体育大会	27 金		27 金		27 金	
28 土		28 土		28 土		28 土	
29 日		29 日		29 日		29 日	
30 月		30 月		30 月		30 月	
31 火	富大付中部交歓会	31 火		31 火		31 火	
備考	8月30日31日 部合宿	備考		備考		備考	

昭和54年度9月

行事、S・H一覧表

金大付属中学校

日曜	行 事	日曜	1 年 S・H	日曜	2 年 S・H	日曜	3 年 S・H
1 土	始業式	1 土		1 土		1 土	
2 日		2 日		2 日		2 日	
3 月		3 月		3 月		3 月	
4 火	教官会議	4 火		4 火		4 火	
5 水		5 水	ポスター制作	5 水	ジョギング	5 水	自主学习
6 木	クラブ	6 木		6 木		6 木	
7 金	総合テスト(3年)	7 金	1泊オリエンテーション	7 金	ジョギング (雨)VTR	7 金	(総合テスト)
8 土	体重測定(1年)	8 土	同上、体重測定	8 土	ジョギング	8 土	(同上)
9 日		9 日		9 日		9 日	
10 月		10 月		10 月		10 月	
11 火	教官会議、常任委員会	11 火		11 火		11 火	
12 水	3年観能	12 水	1泊旅行のフォークダンス練習	12 水	生徒会役員立候補者選出	12 水	観能
13 木	3年1年1泊旅行	13 木	(1泊旅行)	13 木		13 木	(1泊旅行)
14 金	体重測定(2年)	14 金	(同上)	14 金	体重測定	14 金	(同上)
15 土	敬老の日	15 土		15 土		15 土	
16 日		16 日		16 日		16 日	
17 月		17 月		17 月		17 月	
18 火	教官会議、生徒会会長選挙	18 火		18 火		18 火	
19 水		19 水	(21日(金)と振替え)	19 水	同 左	19 水	同 左
20 木	北信越研究会、生徒会役員選挙	20 木		20 木		20 木	
21 金	体重測定(3年)	21 金	運動会種目説明	21 金	運動会種目説明	21 金	グラウンド整備、体重測定
22 土		22 土	選手選出、1泊旅行の反省	22 土	運動会全体練習、ジョギング	22 土	運動会種目説明
23 日		23 日		23 日		23 日	
24 月	秋分の日	24 月		24 月		24 月	
25 火	教官会議、常任委員会	25 火		25 火		25 火	
26 水	午後運動会の準備	26 水	運動会準備(28日(金)と振替え)	26 水	同 左	26 水	同 左
27 木	運動会(雨天のため延期)	27 木		27 木		27 木	
28 金	運動会(一部、残りは延期)	28 金		28 金		28 金	
29 土	大掃除	29 土	大掃除	29 土	同 左	29 土	同 左
30 日		30 日		30 日		30 日	
備考		備考		備考		備考	

日曜	行 事	日曜	1 年 S・H	日曜	2 年 S・H	日曜	3 年 S・H
1 月	教育実習開始(他学部3年)	1 月		1 月		1 月	
2 火	運動会(残りの分)	2 火		2 火		2 火	
3 水	大掃除	3 水	大掃除	3 水	同 左	3 水	同 左
4 木	クラブ	4 木		4 木		4 木	
5 金		5 金	部活動	5 金	同 左	5 金	同 左
6 土	身体測定(1年)	6 土	身体測定	6 土	ポスター制作(世界連邦)	6 土	「城下町みて歩き」オリエン テーション
7 日		7 日		7 日		7 日	
8 月		8 月		8 月		8 月	
9 火	遠足(付小運動会)	9 火		9 火		9 火	「城下町みて歩き」
10 水	体育の日	10 水		10 水		10 水	
11 木	クラブ	11 木		11 木		11 木	
12 金	中体連新人大会	12 金		12 金		12 金	(卒業写真撮影)
13 土	教育実習終了	13 土		13 土		13 土	(同上)
14 日		14 日		14 日		14 日	
15 月		15 月		15 月		15 月	
16 火	教官会議、常任委員会	16 火		16 火		16 火	
17 水	インフルエンザ予防接種、クラブ	17 水	学級会(文化祭について)	17 水	同 左	17 水	同 左
18 木		18 木		18 木		18 木	
19 金	身体測定(2年)、育友会講演会	19 金	自主学習	19 金	自主学習 身体測定	19 金	自主学習
20 土	身体測定(3年)、公聴会	20 土	生徒会公聴会	20 土	同 左	20 土	同 左
21 日		21 日		21 日		21 日	
22 月		22 月		22 月		22 月	
23 火	中間テスト	23 火		23 火		23 火	
24 水	源氏物語絵巻展見学	24 水		24 水		24 水	
25 木	集会:講演会「話し方、聞き方」	25 木		25 木		25 木	
26 金		26 金	学年集会(1)	26 金	ジョギング	26 金	文化祭の準備 練習(2)
27 土		27 土	大掃除	27 土	同 左	27 土	同 左
28 日	三県付中交歓会(生徒会執行部)	28 日		28 日		28 日	
29 月	遠足	29 月		29 月		29 月	
30 火	教官会議 常任委員会	30 火		30 火		30 火	
31 水		31 水	学年集会(2)	31 水	(ジョギング)(雨) 修学旅行VTR	31 水	文化祭の準備 練習(3)
備考		備考		備考		備考	

昭和54年度11月

行事、S・H一覧表

金大付属中学校

日曜	行事	日曜	1年 S・H	日曜	2年 S・H	日曜	3年 S・H
1木	インフルエンザ予防接種、クラブ	1木		1木		1木	
2金	市合同音楽会(3年)、体重測定(1年)	2金	文化祭の準備練習(2)、体重測定	2金	文化祭の準備練習(2)	2金	3年市合同音楽会
3土	文化の日	3土		3土		3土	
4日		4日		4日		4日	
5月		5月		5月		5月	
6火	教官会議	6火		6火		6火	
7水	育友会(2年)、修学旅行説明	7水	文化祭の準備練習(3)	7水	同 左	7水	同 左
8木	クラブ	8木		8木		8木	
9金		9金	文化祭の準備練習(4)	9金	同 左	9金	同左、卒業写真全体撮影
10土	体重測定(2年)	10土	同 上 (5)	10土	同 上 体重測定	10土	同 上
11日		11日		11日		11日	
12月		12月		12月		12月	
13火	教官会議	13火		13火		13火	
14水		14水	文化祭の準備練習(6)	14水	同 左	14水	同 左
15木	午後文化祭の準備	15木		15木		15木	
16金	文化祭	16金		16金		16金	
17土		17土		17土		17土	
18日		18日		18日		18日	
19月		19月	大掃除	19月	同 左	19月	同 左
20火	教官会議	20火		20火		20火	
21水		21水		21水		21水	
22木	学 活	22木		22木		22木	
23金	勤労感謝の日	23金		23金		23金	
24土	体重測定(3年)	24土	自主製作(1)	24土	修学旅行予備学習	24土	知能テスト 体重測定
25日		25日		25日		25日	
26月		26月		26月		26月	
27火	修学旅行(2年)	27火		27火	修学旅行	27火	
28水	総合テスト(3年)	28水	自主製作(2)	28水		28水	(総合テスト)
29木	個別懇談会(1年 12/4迄)	29木		29木		29木	(同 上)
30金	体重測定(1年)	30金	自主製作(3)	30金		30金	自主研究(1)
備考	父兄懇談会	備考		備考		備考	

日曜	行 事	日曜	1 年 S・H	日曜	2 年 S・H	日曜	3 年 S・H
1 土	個別懇談会(1年)、体重測定(1年)	1 土	自主製作(4)、体重測定	1 土	修学旅行の感想文をかく	1 土	自主研究(2)
2 日		2 日		2 日		2 日	
3 月		3 月		3 月		3 月	
4 火	教官会議、体重測定(3年)	4 火		4 火		4 火	
5 水	育友会講演会	5 水	自主学习、個別懇談	5 水	自主学习	5 水	自主研究(3)
6 木	個別懇談会(3年) 学 活	6 木		6 木		6 木	
7 金		7 金	自主学习、個別懇談	7 金	自主学习	7 金	自主研究(4)、個別懇談
8 土	体重測定(2年)	8 土	自主学习、個別懇談	8 土	自主学习、体重測定	8 土	自主研究(5) 個別懇談
9 日		9 日		9 日		9 日	
10 月	職員健康診断	10 月		10 月		10 月	
11 火	教官会議	11 火		11 火		11 火	
12 水	学期末テスト、教官研修(金箔)	12 水		12 水		12 水	
13 木		13 木		13 木		13 木	
14 金		14 金		14 金		14 金	
15 土		15 土	自主製作(5)、個別懇談	15 土	読書(1)	15 土	自主研究(6)
16 日		16 日		16 日		16 日	
17 月		17 月		17 月		17 月	
18 火	教官会議	18 火		18 火		18 火	
19 水		19 水	自主製作(6)、個別懇談	19 水	読書(2)	19 水	自主研究(7)
20 木	成績伝票提出 主張大会	20 木		20 木		20 木	
21 金		21 金	自主製作(7)、個別懇談	21 金	読書(3)	21 金	自主研究(8)
22 土		22 土	自主製作(8)	22 土	読書感想文をかく(4)	22 土	自主研究(9)
23 日		23 日		23 日		23 日	
24 月	終業式	24 月		24 月		24 月	
25 火		25 火		25 火		25 火	
26 水		26 水		26 水		26 水	
27 木		27 木		27 木		27 木	
28 金		28 金		28 金		28 金	
29 土		29 土		29 土		29 土	
30 日		30 日		30 日		30 日	
31 月		31 月		31 月		31 月	
備考		備考		備考		備考	

日曜	行 事	日曜	1 年 S・H	日曜	2 年 S・H	日曜	3 年 S・H
1 火		1 火		1 火		1 火	
2 水		2 水		2 水		2 水	
3 木		3 木		3 木		3 木	
4 金		4 金		4 金		4 金	
5 土		5 土		5 土		5 土	
6 日		6 日		6 日		6 日	
7 月		7 月		7 月		7 月	
8 火	始業式 教官会議 願書交付	8 火		8 火		8 火	
9 水		9 水	自主製作(補1)	9 水	読書(5)	9 水	自主研究の発表
10 木	学 活	10 木		10 木		10 木	
11 金		11 金	自主製作(補2)	11 金	読書(6)	11 金	自主研究の発表
12 土		12 土	自主製作(補3)	12 土	読書感想文をかく(7)	12 土	自主研究の発表
13 日		13 日	(補は時間が不足した為に延長したもの)	13 日		13 日	
14 月	教育実習開始(養護課程2/9迄)	14 月		14 月		14 月	
15 火	成人の日	15 火		15 火		15 火	
16 水	模擬テスト(3年)	16 水		16 水	読書(8)	16 水	3年模擬テスト
17 木	1、2年 学 活	17 木		17 木		17 木	
18 金		18 金	自主製作の発表会(2時限16日より)	18 金	読書(9)	18 金	自主研究の発表
19 土		19 土	自主製作の発表会 作品展示	19 土	A・B組計測、C・D読書	19 土	A、C、D自主研究の発表
20 日		20 日		20 日	(10)	20 日	B球技大会練習
21 月		21 月		21 月		21 月	
22 火	教官会議 常任委員会 体重測定(3年)	22 火		22 火		22 火	
23 水		23 水	自主製作を終えて反省感想文をかく	23 水	C組計測 A・B・D 読書(1)	23 水	クラス討議(公安について)
24 木	学 活	24 木		24 木		24 木	
25 金		25 金	グループ懇談会、読書(1)	25 金	D組計測、A・B・C 読書(2)	25 金	D自主研究発表ABC 自主学習
26 土		26 土	A、B組計測、読書(2)	26 土	読書(3)	26 土	D自主研究発表ABC 自主学習
27 日		27 日		27 日		27 日	
28 月	午後球技大会(3年)	28 月		28 月		28 月	(球技大会)
29 火	教官会議	29 火		29 火		29 火	
30 水		30 水	グループ懇談会、読書(3)	30 水	読書(4)	30 水	
31 木	学 活	31 木		31 木		31 木	
備考		備考		備考		備考	

昭和55年度2月

行事、S・H一覧表

金大付属中学校

日曜	行 事	日曜	1 年 S・H	日曜	2 年 S・H	日曜	3 年 S・H
1 金		1 金	グループ懇談会、読書(4)	1 金	読書 (15)	1 金	(高校入試下見)
2 土		2 土	C・D組計測、読書(5)	2 土	読書感想文をかく (16)	2 土	(私立高校入試)
3 日		3 日		3 日		3 日	
4 月		4 月		4 月		4 月	
5 火	教官会議	5 火		5 火		5 火	
6 水	大掃除	6 水	大掃除	6 水	同 左	6 水	同 左
7 木	学 活	7 木		7 木		7 木	
8 金	(付高内部選考)	8 金	グループ懇談会、読書(6)	8 金	読書 (17)	8 金	(付高内部選考)
9 土	教育実習終了	9 土	グループ懇談会、読書(7)	9 土	読書 (18)	9 土	
10 日		10 日		10 日		10 日	
11 月	建国記念の日	11 月		11 月		11 月	
12 火	教官会議、常任委員会、球技大会(2年)	12 火		12 火	球技大会	12 火	
13 水	願書受付(2/12~2/22)	13 水	グループ懇談会、読書(8)	13 水		13 水	
14 木	学 活	14 木		14 木		14 木	
15 金		15 金	グループ懇談会、読書(9)	15 金		15 金	
16 土		16 土	読書感想文をかく (10)	16 土		16 土	
17 日		17 日		17 日		17 日	
18 月		18 月		18 月		18 月	
19 火	教官会議	19 火		19 火		19 火	
20 水		20 水	体重測定、読書 (11)	20 水	読書 (19)	20 水	
21 木	生徒会役員選挙	21 木		21 木		21 木	
22 金		22 金	学年集会、(講演会)	22 金	読書 (20)	22 金	
23 土		23 土	感想文発表(クラスごと)	23 土	読書感想文をかく	23 土	
24 日		24 日		24 日		24 日	
25 月		25 月		25 月		25 月	
26 火	教官会議、常任委員会	26 火		26 火		26 火	
27 水		27 水	卒業式の歌練習	27 水	同 左	27 水	
28 木	学 活	28 木		28 木		28 木	
29 金		29 金	卒業式の歌練習	29 金	同 左	29 金	
備考		備考		備考		備考	

昭和 55 年度 3 月

行事、S・H 一覧表

金大付属中学校

日 曜	行 事	日 曜	1 年 S・H	日 曜	2 年 S・H	日 曜	3 年 S・H
1 土	3,4 限大掃除 入学試験準備	1 土	大掃除、入学式準備	1 土	同 左	1 土	
2 日		2 日		2 日		2 日	
3 月	入学試験	3 月		3 月		3 月	
4 火		4 火		4 火		4 火	
5 水		5 水		5 水		5 水	
6 木	学期末テスト	6 木		6 木		6 木	
7 金		7 金		7 金		7 金	
8 土		8 土		8 土		8 土	
9 日		9 日		9 日		9 日	
10 月	球技大会(1年)	10 月	球技大会	10 月		10 月	
11 火		11 火		11 火		11 火	
12 水	2 時仮入学式 (公立高校入試)	12 水	体重測定	12 水	読書 (2)	12 水	(公立高校入試)
13 木	学 活	13 木		13 木		13 木	
14 金		14 金		14 金	読書 (2)	14 金	
15 土	大掃除、成績伝票提出	15 土	大掃除	15 土	同 左	15 土	
16 日		16 日		16 日		16 日	
17 月	卒業式予行	17 月		17 月		17 月	
18 火	卒業式	18 火		18 火		18 火	
19 水	終業式	19 水		19 水		19 水	
20 木	春分の日	20 木		20 木		20 木	
21 金		21 金		21 金		21 金	
22 土		22 土		22 土		22 土	
23 日		23 日		23 日		23 日	
24 月		24 月		24 月		24 月	
25 火		25 火		25 火		25 火	
26 水		26 水		26 水		26 水	
27 木		27 木		27 木		27 木	
28 金		28 金		28 金		28 金	
29 土		29 土		29 土		29 土	
30 日		30 日		30 日		30 日	
31 月		31 月		31 月		31 月	
備考		備考		備考		備考	